十日町市教育委員会　文化財課　年報15

平成25年度（2013.4 ～ 2014.3）

十日町市教育委員会　文化財課

例　　言

１．本書は、十日町市教育委員会文化財課の平成25年度を中心とした活動記録である。
２．本書の構成は文化財課の業務を大まかにⅠ．運営、Ⅱ．指定文化財、Ⅲ．埋蔵文化財、Ⅳ．古文書等歴史資料整理事業、Ⅴ．その他の５つに分類した。
３．本書の原稿は、文化財課職員がそれぞれ担当を決めて分担執筆し、末尾に担当者名を記した。
４．提出された原稿は、できるだけ原文を尊重した。ただし、用字・用語、内容、表記など執筆者の了解をえて編集者が修正した箇所がある。
５．本書の編集は石原正敏が担当し、笠井洋祐の協力を得た。
６．文化財の調査・保護活動から本書作成までに、教育委員、文化財保護審議会委員、指定文化財の所有者・管理者の各位をはじめ下記の団体、機関などからご支援・ご協力をいただいた。記して御礼申し上げる次第である。　（順不同・敬称略）

NPO笹山縄文の里　㈲アルケーリサーチ　大村建設㈱　㈱茅葺屋根保存協会　㈱三髙土木　(公社)十日町地域シルバー人材センター　㈱清水建設　㈱高橋組　㈱拓越　㈱十日町測量　㈲羽鳥建築　㈲ペンタラボ　㈱星野建設　㈱宮内測量設計事務所　十日町市博物館友の会　十日町市建設課・都市計画課・農林課　十日町地域広域事務組合　新潟県十日町地域振興局　新潟県教育庁文化行政課　文化庁

目　　次

Ⅰ．運営
１．文化財保護行政の現状と課題…… 1
２．文化財保護審議会の経過…… 2
３．予算と決算…… 3

Ⅱ．指定文化財
１．新指定の文化財…… 4
２．国・県・市指定文化財の保存と管理…… 6
３．火焔の都整備事業…… 8

Ⅲ．埋蔵文化財
１．発掘調査……10
２．保存目的の範囲確認調査……13
３．笹山遺跡学術調査（発掘）事業……14
４．埋蔵文化財発掘調査報告書作成事業……16

Ⅳ．古文書等歴史資料整理事業……18

Ⅴ．その他
１．博物館教育普及事業……21
２．文化財資料の保存と活用……23

資料
１．十日町市の指定文化財一覧……24
２．埋蔵文化財関係データ……27
３．文化財関係者名簿……29
４．平成24年度の活動記録……30

Ⅰ．運　営

１．文化財保護行政の現状と課題

平成25年度の文化財課の方針は、「地域文化の向上に資するため、文化財の調査、研究、保存、管理の充実をはかる」で、前年度と同じである。職員10人（博物館と兼務）、嘱託職員１人、臨時職員６人、補助員７人の体制で、①文化財保護調査事業、②文化財保存修理事業、③火焔の都整備事業、④遺跡調査発掘事業、⑤埋蔵文化財等調査事業、⑥古文書等歴史資料整理事業、⑦資料館等維持管理事業に取組んだ。その取組概要と課題について述べる。

①文化財保護調査事業では、市の文化財指定の諮問を受けた名ケ山の「鶴沼池」について、文化財保護審議会において１年間の調査、検討を経たうえで、市指定天然記念物として指定することができた。文化財の新指定にあたっては、全市域から様々な情報を収集したうえで、指定対象物件の調査、検討が必要である。

②文化財保存修理事業では、国の重要文化財・星名家住宅の土蔵６棟の害虫駆除を国・県の補助を得ながら実施することができた。土蔵の害虫駆除終了後、主屋にも虫害が発生していることが判明したため、26年度事業として害虫駆除を実施できないか、国・県と協議をしているところである。いずれにしても、文化財の所有者と連絡を密にすることで、貴重な文化財の保存を図っていく必要がある。

③火焔の都整備事業では、笹山遺跡第10次調査を実施し、今回も一般の方から発掘調査に参加いただくことができた。３か年にわたる発掘調査は今年度で一応終了し、平成26・27年度で調査の成果をまとめることになる。また、９月に2020年東京オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定したことから、聖火台のデザインに笹山遺跡出土の国宝・火焔型土器を採用してほしいとの要望書を市長が下村博文文部科学大臣に渡すとともに、12月には国宝・火焔型土器のレプリカを下村大臣に贈呈することができた。日本固有の縄文文化の華である火焔型土器を世界にPRできる絶好の機会であり、今後も夢の実現に向け努力を重ねていきたい。

④遺跡調査発掘事業では、当初、国県道の改良に伴う本調査４か所を予定していたが、消防デジタル無線中継局建設に伴う天尾山城跡（堀之内・本屋敷）の本調査が追加となった。また、本調査の他に民間事業者の開発に伴う試掘・確認調査を行うなど、担当職員は多忙を極めた。今後も、委託できる業務は積極的に業務委託し、職員の負担軽減を図る必要がある。

⑤埋蔵文化財等調査事業では、前年度に引き続き『野首遺跡発掘調査報告書Ⅱ〈遺物編Ⅰ〉』の編集に取組んだ。この報告書Ⅱは平成28年度の刊行を目指している。野首遺跡の外にも樽沢開田遺跡、上屋敷・溝遺跡などの報告書の編集を進めている。また、未刊の調査報告書があるため、年次計画を立てて刊行していく必要がある。

⑥古文書等歴史資料整理事業では、『十日町市歴史資料目録11』（佐藤慎一郎家文書、高橋平八郎家文書、大久保健家文書、中林昌子家文書、庭野俊道家文書を所収）を刊行するとともに、古文書整理ボランティアにより旧山内写真館資料の整理を行った。なお、古文書整理ボランティアは平成17年結成以来の活動が認められ、10月に「新潟県自治活動賞」を受賞した。今後も、古文書整理ボランティアとの協働により、歴史資料の整理、活用を図っていかなければならない。

⑦資料館等維持管理事業では、松之山郷民俗資料館、川西文化財資料収蔵庫、高倉文化財資料収蔵庫の維持管理を行うとともに、博物館展示替えを見据えた博物館収蔵庫の収蔵資料を川西・高倉文化財資料収蔵庫への移転を行った。既存の収蔵庫が手狭になってきており、新たな収蔵場所を確保する必要がある。

以上のような取組みを博物館業務と兼務しながら行ってきた。博物館は平成26年度に開館35周年を迎え、26年度から展示リニューアルについても本格的な検討を始めることになっている。幅広い業務を限られた人数の職員でこなすには、まず、各自の健康管理が一番大切である。各自が能力を目いっぱい発揮できるよう、環境整備を心掛けたい。　（佐野　芳隆）

２．文化財保護審議会の経過

○第１回　　７月22日 ㈪　13:30～17:00

【出席者】　委員：武田正史、宮澤孝美、星名　寔、庭野政義、井上信夫、川村知行、村山詔平、山本善平、相沢一郎、竹内俊道　10名　事務局：佐野課長、佐野課長補佐、石原副参事、鈴木職員

【内　容】　文化財保護審議会委員の改選により相沢委員、竹内委員が新任

十日町市文化財保護条例第35条により、委員の互選で武田委員が会長、会長の指名により宮澤委員が職務代理者と決定した。事務局より平成24年度の事業経過報告、平成25年度の事業計画などの報告の後、24年度からの継続審議案件である「名ケ山の鶴沼池」について現地視察を実施した。

○第２回　　10月３日 ㈭　13:30～15:00

【出席者】　委員：武田正史、宮澤孝美、星名　寔、庭野政義、井上信夫、村山詔平、山本善平、相沢一郎、竹内俊道　９名　事務局：佐野課長、佐野課長補佐、石原副参事、鈴木職員

【内　容】　事務局より市指定文化財　北田如意庵板碑、山田観音堂板碑の保存状態と平成25年度埋蔵文化財関係事業計画についての説明。名ケ山の鶴沼池指定における地元の意向の確認と今後のスケジュールについて審議された。

◇十日町市・津南町文化財保護審議会　合同研修会　11月22日 ㈮　10:00～13:00

【会　場】　松之山自然休養村センター　講堂

【内　容】

・視　察：中尾の大スギ（元県指定文化財）、鏡が池（市指定地域文化財）、大棟山美術博物館、
　　松陰寺　マリア観音像（案内・解説　村山　悦夫氏、松之山公民館　福原副館長）

・十日町市・津南町　文化行政意見交換会

「合併により広域化した文化財の保護管理について」　十日町市教育委員会文化財課　石原副参事

「広域に分布する文化財認識と管理体制について」　津南町教育委員会文化財班　　佐藤班長

【出席者】　委員：十日町市８名、津南町５名　　事務局：十日町市４名、津南町２名

○第３回　　１月27日 ㈪　15:00～17:00

【出席者】　委員：武田正史、宮澤孝美、庭野政義、村山詔平、山本善平、相沢一郎、竹内俊道　７名
　　事務局：佐野課長、佐野課長補佐、石原副参事、鈴木職員

【内　容】　事務局より重文　星名家住宅と博物館における文化財防火デー実施と平成26年度　文化財課事業予定について説明。名ケ山の鶴沼池の市指定文化財の答申について審議された。

○第４回　　３月７日㈮　15:00～16:00

【出席者】　委員：武田正史、宮澤孝美、星名　寔、庭野政義、井上信夫、村山詔平、山本善平、相沢一郎、竹内俊道　９名　蔵品十日町市教育長　事務局：佐野課長、佐野課長補佐、石原副参事、鈴木職員

【内　容】　十日町市指定文化財　名ケ山の鶴沼池　指定答申を決定
　　蔵品教育長に答申書を手渡した。一部を報道機関に公開した。
　　今後の市指定文化財について教育長を交えて意見交換を行った。

（佐野　誠市）

３．予算と決算

平成25年度の予算は、当初予算が前年に比べ3.5%プラスの117,021千円となった。しかし、６月補正で10,000千円の増、９月補正で312千円の増、12月補正で1,500千円の増、３月補正で8,400千円の増となり、補正後予算額は137,233千円となっている。予算内容は大別すると⑴一般経費（2,954千円）、⑵古文書等歴史資料整理事業関係経費（2,734千円）、⑶文化財保護調査関係経費（3,200千円）、⑷埋蔵文化財関係経費（79,952千円）、⑸火焔の都整備事業関係経費（45,512千円）、⑹資料館等維持管理経費（7,681千円）からなる。このうち、⑷埋蔵文化財関係経費30,630千円、⑸火焔の都整備事業関係経費の12,500千円が平成26年度に明許繰越される予定である。

⑴は文化財保護審議会関係経費、嘱託職員報酬、⑵は古文書等歴史資料整理事業費、⑶は文化財指定に係る調査、指定文化財管理手数料、補助金、⑷は遺跡発掘調査・遺物整理事業費、埋蔵文化財等調査報告書作成事業費、⑸は火焔の都整備に向けた土地購入、公園整備及び関連ソフト事業費、笹山遺跡学術調査事業費、⑹は資料館等の管理経費、車両関係経費などである。　　（矢口ヨネ子・大滝　孝子）

☆平成25年度予算（現年度）

歳入予算（決算見込）　　（単位：千円）　　※3月26日現在

款　　項　　目 節	説　明	当初予算額	補正額	補正後予算額	決算見込額
13款　使用料及び手数料　１項	使用料　　７目　教育使用料				
６．民俗資料館入館料	20. 松之山郷民俗資料館入館料	100	0	100	78
14款　国庫支出金　　２項	国庫補助金　　５目　教育費国庫補助金				
４．社会教育費補助金	25. 遺跡調査遺物整理補助金	1,500	0	1,500	1,500
15款　県支出金　　２項	県補助金　　１目　総務費県補助金				
１．合併特別交付金	05. 新潟県合併特別交付金	18,000	0	18,000	18,000
15款　県支出金　　２項	県補助金　　８目　教育費県補助金				
１．文化財費県補助金	20. 遺跡調査遺物整理補助金	375	0	375	375
15款　県支出金　　３項	委託金　　５目　教育費委託金				
２．埋蔵文化財調査委託金	５．埋蔵文化財調査委託金	40,500	21,400	61,900	31,300
	15. 県営中山間地域総合整備事業 遺跡発掘調査委託金	10,925	△10,925	0	0
20款　諸収入　　５項	雑入　　２目　雑入				
７．消防雑入	15. デジタル消防無線中継局建設 発掘調査受託収入	0	10,000	10,000	10,000

歳出予算（決算見込）　　（単位：千円、千円未満切り上げ）　　※3月26日現在

節	説　明	当初予算額	補正額	補正後予算額	決算見込額
１．報　酬	文化財保護審議会委員・文化財調査研究員	2,880	0	2,880	2,852
２．給　料	一般職	100	0	100	100
７．賃　金	発掘調査遺物整理作業員・調査整理補助員 中里文化財資料収蔵庫維持管理作業員 文化財保護作業員ほか	18,038	6,383	24,421	13,802
８．報償費	講師謝礼・指導者謝礼ほか	1,488	△ 442	1,046	671
９．旅　費	費用弁償・普通旅費	642	△ 97	545	402
11. 需用費	消耗品費・燃料費・印刷製本費 修繕料・光熱水費	9,312	△ 2,162	7,150	5,644
12. 役務費	通信運搬費・手数料・保険料	1,530	△ 89	1,441	1,404
13. 委託料	遺跡発掘作業委託・遺物整理作業 遺跡調査管理支援・地形等測量 遺物実測作業・土器復元作業 公園整備設計及び竪穴式住居設置委託料 施設等管理・除雪委託	71,380	16,728	88,108	63,570
14. 使用料ほか	発掘用重機賃借料ほか	1,248	△ 416	832	600
15. 工事請負費	加圧ポンプ取替工事	0	312	312	312
16. 原材料費	遺構保存用原材料	5	△ 5	0	0
17. 公有財産 購 入 費	土地購入費	5,000	0	5,000	0
19. 負担金ほか	指定文化財保存管理補助金 文化財保存修理補助金 文化財保存事業費補助金 信濃川火焔街道連携協議会負担金	2,879	0	2,879	2,208
22. 補償金ほか	立木補償料	2,500	0	2,500	100
27. 公課費	自動車重量税	19	0	19	19
合　計		117,021	20,212	137,233	91,684

Ⅱ．指定文化財

１．新指定の文化財

平成24年度では、十日町市教育員会から十日町市指定文化財についての諮問がなされ、平成25年３月７日付で天然記念物「入山のカスミザクラ」について指定が解除された。

○十日町市指定文化財　諮問（平成25年１月18日）

・指定　　天然記念物　名ケ山の鶴沼池
・指定解除　　天然記念物　入山のカスミザクラ

○十日町市指定文化財　指定解除　答申（平成25年３月７日）

○十日町市指定文化財　指定解除　告示（平成25年３月26日）

・種　　別　　天然記念物
・名称及び員数　入山のカスミザクラ　１本
・解除理由

平成９年３月24日に旧十日町市指定文化財として指定され、合併後の十日町市指定文化財として継続されていたものであるが、数年前から樹勢が衰え始め、平成23年度の調査時点において、幹及び主要な枝に菌類が繁茂し、立ち枯れ状態に陥っていることが明らかになっており、今後とも復活する見込みがないため。

写真1　指定当時の状況

写真2　解除時の状況

○名ケ山の鶴沼池について

平成25年度では、引き続き「名ケ山の鶴沼池」について十日町市文化財保護審議会において継続審議となった。

・種別　　天然記念物
・名称及び員数　名ケ山の鶴沼池

平成25年７月22日に文化財保護審議会委員が現地視察を実施後、調査結果や文献より検討した。

名ケ山の鶴沼池は生態系としては、ジュンサイ、ヒツジグサ、ミツガシワ（新潟県絶滅危惧Ⅱ類）などの植物や、シナイモツゴ（新潟県準絶滅危惧・環境省絶滅危惧ⅠＡ類）やゲンゴロウ、マルタニシ（新潟県準絶滅危惧・環境省絶滅危惧Ⅱ類）などの水生生物のほか、マダラナニワトンボ（新潟県絶滅危惧Ⅰ類・環境省絶滅危惧ⅠＢ類）やコバネアオイトトンボ（新潟県絶滅危惧Ⅱ類・環境省絶滅危惧ⅠＢ類）などの昆虫にいたっては全国的に希有な生息地となっている。

また、十日町市史の中で保全したい地域として記載されており、昔より自然の恵みが素晴らしい場所として位置づけられている。

検討の結果、名ケ山の鶴沼池は、十日町市指定文化財天然記念物として指定し、保護・保全するに相応しいものであるとした。

○参考文献

・十日町市史　資料編１　自然　（平成４年３月　十日町市史編さん委員会）

・県営中山間地域総合整備事業　吉田地区　第５次測量設計業務委託　報告書
（平成21年２月　新潟県十日町地域振興局農業振興部　㈱ナルサワコンサルタント）

・希少水生動物生息地　十日町市名ケ山鶴沼池の現状と工事計画
（平成21年２月２日　生物多様性保全ネットワーク　井上信夫）

・希少トンボの保護について（お願い）（平成21年２月３日　日本蜻蛉学会会員　佐藤良次）

・信濃川水系中越地域における絶滅危惧種シナイモツゴの保全生態学的研究
（朝倉瑞樹　平成25年11月　第11回（公財）こしじ水と緑の会　成果発表会予稿集）

○希少生物

シナイモツゴ（新潟県準絶滅危惧　環境省絶滅危惧ＩＡ類）

透明鱗ギンブナ

ゲンゴロウ、マルタニシ（新潟県準絶滅危惧・環境省絶滅危惧Ⅱ類）

マダラナニワトンボ（新潟県絶滅危惧Ⅰ類・環境省絶滅危惧ＩＢ類）

コバネアオイトトンボ（新潟県絶滅危惧Ⅱ類・環境省絶滅危惧ＩＢ類）

クロサンショウウオ、アカハライモリ（新潟県準絶滅危惧・環境省準絶滅危惧）

ジュンサイ、イヌタヌキモ、ミツガシワ、ミカヅキグサ、オオニガナ（新潟県絶滅危惧Ⅱ類）など

以上のことから市文化財保護審議会は名ケ山の鶴沼池を市指定文化財として指定することを答申した。

○十日町市指定文化財　指定　答申（平成26年３月７日）

１．種　別　　天然記念物

２．名　称　　名ケ山の鶴沼池

３．指定理由　　希少動植物の生息地として貴重であり、保護のため天然記念物とするに相応しい。

４．文化財の現状　　地目：溜池　　周囲：約250m　面積：約2,650㎡

生態：マダラナニワトンボ（環境省絶滅危惧ＩＢ類）やコバネアオイトトンボ（環境省絶滅危惧ＩＢ類）、ゲンゴロウ（環境省絶滅危惧Ⅱ類）の貴重種昆虫３種を産する県内でも希有な池であり、シナイモツゴ（環境省絶滅危惧ＩＡ類）やジュンサイ（新潟県絶滅危惧Ⅱ類）など希少な動植物が多く確認されている。

写真3　文化財保護審議会委員の現地視察

写真4　名ケ山の鶴沼池

（佐野　誠市）

２．国・県・市指定文化財の保存と管理

○指定文化財件数

・国指定文化財７件・国登録文化財９件・県指定文化財11件・市指定文化財108件・市指定地域文化財26件（※文化財の内訳については巻末を参照願いたい。）

⑴ 文化財保存管理委託・補助事業

十日町市教育委員会では、文化財指定を行った文化財にその保存・管理等のため、所有者（管理者）に対して保存事業と管理作業について補助金を交付している。管理作業の対象となる事業費は、清掃・雪囲い・除雪などが必要な屋外の物件、補助対象は、無形民俗文化財のうち伝承に係る内容のものを原則としている。

写真5　星名家住宅　燻蒸作業

○国県指定文化財保存事業補助金（353,000円）

・星名家住宅　蔵６棟燻蒸作業

○国指定文化財維持管理補助金（793,000円）

・松苧神社本殿、星名家住宅　雪囲い、除雪、火報等

○市指定文化財管理手数料（1,035,900円）

・市指定文化財38件

○市指定文化財管理補助金

・市指定文化財14件（140,000円）

・大規模修繕等２件（287,000円）

写真6　太田島小牧社の大ケヤキ剪定作業

⑵ 板碑の立て直し修繕

十日町市内には板碑が34点確認されていた。その内旧川西町に33点があり、長徳寺板碑のみが緑泥片岩を整形した関東型板碑であるのに対し、大多数が自然石に種子を刻んだものである。平成16年10月23日の中越地震より地盤が揺すられた後、雪の重みで徐々に傾いたと思われる板碑を、地元より立て直しの依頼があった２件について、平成25年９月30日立て直しの作業にあたった。２件とも長年の経緯の中で本来の設置された場所からは位置を移動しているものと思われる。

「山田観音堂板碑」は霜条地内神明社境内地の、４基うちの１基で、北に45度傾いていた。形状は楕円扁平で高さ50*巾30＊厚15㎝を測る。種子は「金剛界大日如来（バン）」を刻んでいる。造立年、造立銘はない。

写真7　山田観音堂板碑　状況

写真8　北田如意庵板碑　修復作業

「北田如意庵板碑」は仁田地内の北田如意庵境内地にある３基の内の１基で東に45度傾いていた。東側は掘削されグループホームの駐車場となっており、それに引っ張られた形で傾いていた。人力での立て直しが難しかったためユニックを使って傾きの修正を行った。形状は長方扁平で高さ87*巾41＊厚24㎝を測る。種子は「阿弥陀一尊（キリーク）」を刻んでいる。造立年、造立銘はない。

⑶ その他

○特別天然記念物のカモシカ等の遺体処理

25年度中に８件８頭のカモシカの滅失処理を実施した。実施日、発見場所は以下のとおりである。

4/22中里小出（佐野、佐野、菅沼）、5/7中里重地（太田、佐野）、5/18中里白羽毛（笠井）、6/10十日町江道（佐野、佐野、太田）、7/24十日町学校町（佐野、太田、笠井）、10/18中里重地（笠井、太田）、10/24松之山天水越（佐野、太田）、1/6中里角間（笠井、太田）

写真9　カモシカ　遺体

傾向とすると旧中里地内での発見が６割以上にのぼった。そのほか、ニホンジカの遺体が、10/12中里中学校付近（冨澤、角山、菅沼）で発見され焼却処分した。一般車輌にひかれたものである。

○文化財防火デー

平成26年１月24日㈮に第60回文化財防火デーに合わせて、国指定重要文化財星名家住宅（上野地内）及び十日町市博物館（西本町１地内）において防災訓練を行った。

貴重な文化財を火災からの消失を防止するための啓もう活動である。なお星名家住宅の防災訓練は第60回防火デーの参考事例として全国に紹介される予定である。

内容等は以下のとおり。

・星名家住宅

実施日：平成26年１月24日㈮　9:30～
内　容：「通報訓練」「貴重品の搬出訓練」
　　「放水訓練」「消火訓練」
協　力：星名家、十日町消防署西分署、
　　川西支所地域振興課、タナベ防災㈱

写真10　星名家住宅　訓練風景

・十日町市博物館

実施日：平成26年１月24日㈮　14:00～
内　容：「通報訓練」「国宝・重要文化財搬出作業」
　　「放水訓練」「消火訓練」「避難誘導訓練」
　　「高所作業車による救出訓練」
協　力：十日町地域消防署本署、総合体育館、西小学校、タナベ防災㈱

写真11　十日町市博物館　訓練風景

○銃砲刀剣類等登録取扱い

２件問い合わせ（松代浦田、十日町本町）があった。１件は箪笥裏から、１件は蔵から偶発的に発見されたものであったため最寄りの警察署に届けるように指導した。「刀剣類の製作承認」に関する事務はなかった。

（太田　喜重、佐野　誠市）

３．火焔の都整備事業

⑴ 平成24年度

火焔の都整備事業は、いわゆるハード事業とソフト事業によって構成される。平成24年度の事業概要は以下のとおりである。地権者交渉に不測の日数を要し、年度内完了が見込めないことから、ハード事業費25,000千円のうち土地購入等にかかる7,800千円を平成25年度に明許繰越をした。

㋐ 委託（委託費計　1,284,050円）

笹山給水設備移転改修工事設計委託　484,050円（SOメンテナンス）

笹山縄文館及び笹山遺跡広場の維持管理に関する委託　800,000円（NPO笹山縄文の里）

㋑ 工事（工事費計　8,501,640円）

笹山給水設備移転改修工事　7,518,000円（㈱拓越）

笹山縄文館電灯引込口変更工事　327,600円（㈱後藤電気）

笹山縄文館改修工事　656,040円（南雲木工所）

㋒ 事務費

一般職給料　10,000円

㋓ 土地購入等（※平成23年度繰越分　5,697,423円）

用地買収　5,001,860円（3,144.87㎡）

立木補償　695,563円

㋔ 負担金

信濃川火焔街道連携協議会負担金　800,000円

写真12　下村文部科学大臣来跡（平成25年9月21日）

⑵ 平成25年度

本年度の事業概要は以下のとおりである。なお、地権者交渉に不測の日数を要し、年度内完了が見込めないことから、ハード事業費12,500千円については平成26年度に明許繰越をした。

㋐ 委託

笹山縄文館及び笹山遺跡広場の維持管理に関する委託　800,000円（NPO笹山縄文の里）

㋑ 土地購入等（※平成24年度繰越分）

用地買収　1,549,329円（911.37㎡）

㋒ 負担金

信濃川火焔街道連携協議会負担金　800,000円

⑶ 今後の課題

平成12年12月にまとめられた「国宝館・火焔の都計画」をより具体化した「国宝館・火焔の都整備事業基本計画」は平成14年９月に策定されている。同基本計画は、計画地の用地測量や遺跡範囲確認調査など、いくつかの基礎調査を実施した後に、財政事情等から具体的な進展を見ることなく経過してきた。国宝館建設については当面、諸条件が整うまで凍結するものとして、平成19年から名称を「火焔の都整備事業」に改め、平成20年度より合併特例債適用事業として取り組みがなされ、現在に至っている。代替地などの問題もあり、計画地の土地買収が思うように進捗していないが、地権者及び関係者の同意が得られるよう、引続き努力していきたい。その上で、住民との協働により、笹山縄文館をガイダンス施設として位置づけることを含めた、新たな基本計画の策定を目指す必要がある。

（石原　正敏）

⑷ 関連ソフト事業

火焔の都整備事業の関連ソフト事業として、①笹山じょうもん市支援（平成12年～）、②縄文の技を磨く仲間研修会開催（平成13年～）、③信濃川火焔街道連携協議会における普及啓発活動（平成14年～）などがある。③について12年間の取組みをまとめたのが第３表である。　　（石原　正敏）

年 度	主　な　事　業	会　長	事 務 局
H.14 （2002）	第１回縄文サミット（8.23 新潟県立歴史博物館） 「縄文シンポジウム2002 in 長岡」開催（11.16）	森　民夫 （長岡市長）	長岡市 （企画課）
H.15 （2003）	第２回縄文サミット（6.4 十日町情報館） 「フォーラム火焔街道往来2004」開催（2.14～2.15）	森　民夫 （長岡市長）	長岡市 （企画課）
H.16 （2004）	三島町が加入し、２市２町１村の構成となる 第３回縄文サミット（6.3 津南・富田屋旅館）	滝沢信一 （十日町市長）	十日町市 （文化財課）
H.17 （2005）	合併により２市１町の構成となる 第４回縄文サミット（7.28 十日町市博物館） シンポジウム「木が語る縄文ライフ」開催（10.29）	田口直人 （十日町市長）	十日町市 （文化財課）
H.18 （2006）	第５回縄文サミット（9.4 津南・富田屋旅館） 縄文楽検定の素案検討	小林三喜男 （津南町長）	津南町 （生涯学習班）
H.19 （2007）	協議会パンフレットをリニューアル 第６回縄文サミット（10.12 ながおか市民センター） カムバックサーモン事業始まる	小林三喜男 （津南町長）	津南町 （生涯学習班）
H.20 （2008）	第７回縄文サミット（8.9 クロス10） 統一サイン設置計画策定	森　民夫 （長岡市長）	長岡市 （企画課）
H.21 （2009）	新潟市が加入し、３市１町の構成となる 縄文楽検定（第１回 5.31、第２回 11.6　長岡市） 第８回縄文サミット（9.2 長岡グランドホテル） 協議会パンフレットをリニューアル 「フォーラム火焔街道往来2010」開催（2.27～2.28）	森　民夫 （長岡市長）	長岡市 （企画課）
H.22 （2010）	三条市が加入し、４市１町の構成となる 第９回縄文サミット（7.28 クロス10） 第３回縄文楽検定（3.5 新潟市・十日町市） 協議会パンフレットをリニューアル	関口芳史 （十日町市長）	十日町市 （文化財課）
H.23 （2011）	ＪＲ臨時列車「火焔街道号」の運行（6.5） 第10回縄文サミット（8.30 新潟市歴史博物館） 第４回縄文楽検定（3.3 新潟市・長岡市・十日町市）	関口芳史 （十日町市長）	十日町市 （文化財課）
H.24 （2012）	第11回縄文サミット（7.10 新潟グランドホテル） 「フォーラム火焔街道往来2013」開催（1.26～1.27） 第５回縄文楽検定（3.3 新潟市・三条市・長岡市・十日町市）	篠田　昭 （新潟市長）	新潟市 （歴史文化課）
H.25 （2013）	第12回縄文サミット（9.1 新潟グランドホテル） 第６回縄文楽検定（3.2 新潟市・三条市・長岡市・十日町市）	篠田　昭 （新潟市長）	新潟市 （歴史文化課）

第３表　信濃川火焔街道連携協議会の歩み（平成26年３月31日現在）

Ⅲ．埋蔵文化財

１．発掘調査

平成24年度の発掘調査の内訳は、本調査５件、確認調査２件、試掘調査14件である。調査原因は本調査が国道改良、県道改良、体育館建設事業で、確認調査は保存目的の範囲確認調査、災害復旧事業である。試掘調査の原因は多岐にわたり区画整理、福祉施設増築、市営住宅建設、土地改良、県道改良、体育館建設、ほ場整備、小学校改築、土砂採取、集合住宅建設、国道改良、ファームポンド建設などである。

平成25年度の発掘調査の内訳は、本調査５件、確認調査２件、試掘調査13件である。調査原因は本調査が国道改良、県道改良、消防デジタル無線中継局建設で、確認調査は保存目的の範囲確認調査、市道建設である。試掘調査の原因は多岐にわたり店舗建設、ほ場整備、ファームポンド建設、携帯電話基地局建設、道路建設、土砂採取、公園整備、消防庁舎建設などである。

以下に平成24・25年度各調査の概要をまとめるが、確認調査と試掘調査の詳細については『平成24年度十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書』、『平成25年度十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書』を参照願いたい。

本調査

⑴ 会所前Ａ遺跡（田中地内）

会所前Ａ遺跡は市立田沢小学校の西100m、ＪＲ飯山線の越後田沢駅から南へ200m、信濃川右岸段丘上に位置している。南西側の隣接範囲では平成16・17年度に旧中里村統合保育園建設に伴って確認調査が実施され、旧石器時代の遺物集中範囲２箇所、縄文時代早期中葉の貝殻腹縁圧痕文土器が出土した遺物集中範囲１箇所、詳細時期不明の掘立柱建物１基、陥穴状土坑２基が確認されている。調査地点の標高は約221mで貝坂面に位置し、現況は旧中里体育館解体後の更地である。

調査は、新中里体育館建設事業に伴って実施した。試掘調査の結果をもとに調査範囲・調査面積を計画し、平成24年７月２日～９月４日まで調査を行った。最終的な調査面積は691㎡（Ａ区：516㎡、Ｂ区：175㎡）である。

調査の結果、Ａ区では竪穴住居址１軒、竪穴状遺構１基、焼土・土坑が数基、多数の柱穴が検出され、Ｂ区では多数の土坑・柱穴が検出された。Ａ区の竪穴住居址覆土からは、縄文時代中期前葉の復元可能な北陸系土器や打製石斧などが出土している。また、Ａ区では倒立した状態で埋設された表裏縄文土器が１基検出された。Ｂ区では柱穴覆土から阿玉台式土器片が出土している。また、Ａ区・Ｂ区の包含層や遺構覆土から旧石器時代のナイフ形石器が出土した。

写真13　会所前Ａ遺跡　完掘状況（南から）

⑵ 橋詰居村遺跡（松之山橋詰地内）

橋詰居村遺跡は、松之山橋詰集落内に位置している。渋海川支流の越道川右岸の台地上に立地し、標高は278～281mを測る。昭和48年に遺跡登録が行われているが、遺跡の範囲が不明確であったため、平成17年に県・市合同の詳細分布調査で遺跡の範囲が概ね確定されている。

調査は、国道353号改良事業に伴って実施した。確認調査の結果をもとに調査範囲・調査面積を計画し、調査は平成24年８月21日～12月７日、平成25年５月21日～12月11日の２箇年行い、最終的な調査面積は1,222 ㎡である。調査は降雪の影響で中断せざるを得なかったため、平成26年度に一部継続して行う予定である。

調査の結果、石組炉、焼土、柱穴・土坑、集石、石列などの遺構が確認され、縄文土器、石器などの遺物が整理用コンテナ（40×60×20㎝）で100箱以上出土した。土器は、その形や文様の特徴から縄文時代中期中葉～後期前葉を主体とする時期のものと考えられる。火焔型や王冠型など立体的な装飾が施された土器も多い。石器は石鏃、石錐、石匙、打製石斧、磨製石斧、三脚石器などがある。今後、整理作業を進める中で、様々な角度から検討が必要である。

写真14　橋詰居村遺跡　土器出土状況（南から）

⑶ 貝野沢田遺跡（本屋敷地内）

貝野沢田遺跡は貝野郵便局の北150m、貝野小学校の南東250m、信濃川左岸段丘上を流れる下沢川と南西方向からの沢状地形に挟まれた台地上に位置している。標高は約186m、信濃川の現河床面との比高差は約36m、下沢川の現河床面との比高差は約４mで、現況は水田である。本遺跡は平成22年夏に実施した試掘調査で新たに発見された遺跡である。

調査は、主要地方道小千谷十日町津南線　緊急地方道（改築）事業に伴い実施した。試掘調査の結果をもとに調査範囲をⅠ～Ⅴ区の５つに分け、Ⅰ・Ⅴ区は平成22年度、Ⅱ～Ⅳ区は平成23年度に調査を実施した。Ⅱ・Ⅲ区では縄文時代草創期の石器製作址で多数の石器が出土し、平成24年７月11日～11月30日、平成25年６月21日～12月11日に継続して調査を実施、今年度の調査面積は430㎡である。降雪の影響で中断せざるを得なかったため、平成26年度に一部継続して行う予定である。

調査の結果、平成22・23年度調査に引き続き縄文時代草創期の石器製作址が確認されたが、掘込み等を伴う明確な遺構は検出されていない。石槍・石槍未製品、スクレイパー、多数の調整剥片が出土し、調査開始時からの合計で石槍・石槍未製品は約60点、調整剥片は取上遺物と水洗選別により得られた資料を合計すると約30,000点を超える点数となっている。使用石材は無斑晶ガラス質安山岩が大多数で、頁岩、凝灰岩が少量である。視覚的に捉えられる簡易的な集中範囲は調査所見として数箇所確認できたが、整理作業時に平面や垂直分布、出土遺物の接合状況など様々な角度から検討を行う必要がある。

写真15　貝野沢田遺跡　石器出土状況（東から）

⑷ おざか清水遺跡（小原地内）

おざか清水遺跡はＪＲ東日本信濃川発電所（宮中取水ダム）の南300m、ＪＲ飯山線の越後田沢駅から北へ900m、信濃川と七川に挟まれた信濃川右岸段丘上の縁辺に位置している。標高は約196m、信濃川の現河床面との比高差は約38m、七川の現河床面との比高差は約25mで、現況は山林である。

本遺跡は平成４年に県営圃場整備事業に伴う試掘調査で新しく発見され、同年に本調査が実施されている。縄文時代草創期、早期、前期、中期、後期、晩期と多時期にわたる資料が出土し、土坑や柱穴、集石などの遺構が検出している。特筆すべき事は、縄文時代草創期の爪形文土器や押圧縄文土器、絡条体圧痕文土器、押引文土器がまとまりをもって出土したことである。

調査は、国道353号小原バイパス建設事業に伴い実施した。平成４年調査範囲の両側が掘削されるため確認調査は実施せず、平成24年８月27日～11月28日、平成25年６月６日～９月20日の２箇年調査を行い、最終的な調査面積は2,370㎡（Ａ区：1,833㎡、Ｂ区：537㎡）である。

調査の結果、平成４年調査と同様に縄文時代の様々な時代の遺構や土器・石器などの遺物が発見された。帰属時期が未定の石組炉、焼土、土坑などが多数検出されている。中でも草創期の視覚的な遺物集中範囲は数箇所確認され、草創期に帰属する土器片は1,000点以上出土している。早期は撚糸文土器や押型文土器、条痕文土器など、前期は羽状縄文土器や諸磯ｃ式土器などが出土している。前期末に帰属する土器片が出土した土坑では、10点以上の石鏃・石鏃未製品、数点の石匙と石錐、楔形石器、１点の有孔石製品、100点以上の黒曜石片が覆土から出土し、土壙墓の可能性が考えられる。その他の土坑から出土した晩期土器片は、内面に朱が付着している資料が確認された。また、帰属時期の検討が必要だが、石棒が出土した土坑が１基検出された。

写真16　おざか清水遺跡　草創期集中部作業風景（北から）

⑸ 天尾山城跡（堀之内・本屋敷地内）

天尾山城跡は市立貝野小学校の西2.9㎞、ＪＲ東日本信濃川発電所（宮中取水ダム）の北西約３㎞、旧中里村と旧松之山町の境にあり、東頸城丘陵上に位置している。標高は約607～634m、信濃川の現河床面との比高差は約455～482mで、現況は山林である。本遺跡は、室町時代の城跡として昭和48年に遺跡登録がされている。

調査は、消防デジタル無線中継局建設および管理道路建設工事に伴って実施した。試掘調査の結果をもとに調査範囲・調査面積を計画した。遺物が出土した頂上部から緩斜面の範囲をＡ区、中段の緩斜面をＢ区の２つに分け、平成25年７月26日～10月29日まで行い、調査面積は2,041㎡である。

調査の結果、Ａ区・Ｂ区共に縄文時代早期、前期、中期の土器・石器が出土した。Ａ区からは早期中葉の貝殻沈線文系土器片、前期前葉の羽状縄文土器片、中期前葉の土器片が出土し、石器は石鏃や石匙、打製石斧、磨製石斧などが出土した。Ｂ区からは、早期中葉の押型文土器片、前期前葉の羽状縄文土器片、中期前葉の土器片が出土した。石器は打製石斧やスクレイパー、黒曜石剥片などが出土している。Ａ区から出土した土器の中には口縁部～底部までまとまりを持って出土し、復元可能な個体として重要な資料であるが、文様が施されない無文土器のため、帰属時期は今後、詳細に検討する必要がある。また、Ａ区では少量の陶磁器片が出土し、帰属時期は今後検討予定である。　　（笠井　洋祐）

写真17　天尾山城跡　土器出土状況（南から）

２．保存目的の範囲確認調査

平成20年度から津南町と十日町市で協議を始めた信濃川と清津川合流点を中心とした縄文時代草創期遺跡群の保存計画は、十日町市では田沢遺跡に対する範囲確認調査を平成21年度（第２次調査）から開始し、平成24年度は第５次調査、平成25年度は第６次調査を実施した。調査に至る経緯や第１次調査～第４次調査の詳細については、平成24年３月刊行の『十日町市教育委員会　文化財課年報14』を参照願いたい。

第５次調査は、平成24年12月３日～12月５日まで行い、調査面積は14㎡（７・８トレンチ）である。調査目的は、第１次調査の旧調査範囲と第４次調査で発見された新たな爪形文土器・押圧縄文土器を主体とする遺物集中範囲の間にトレンチ（７トレンチ）を設定し、遺跡の広がりと堆積土層の確認を目的とした。８トレンチは、田沢遺跡の南東に位置すると推定される中林遺跡との間、子細な視点で微地形を観察すると両遺跡は段丘面が異なることから、その地形の変換点にトレンチを設定し、田沢遺跡の広がりと新たな遺物包含範囲を探求する目的で調査を行った。

写真18　田沢遺跡（第５次）　作業風景（北西から）

調査の結果、７トレンチでは自然堆積土から土器４点、石器５点、礫１点が出土した。出土した土器のうち１点のうち微隆起線文土器片である。８トレンチでは遺構・遺物ともに発見されなかった。７トレンチ付近にも自然堆積土が残存し出土遺物も少量だが、遺物包含範囲が広がることが確認された。

第６次調査は、平成25年12月３日～12月13日まで行い、調査面積は15㎡（９･10トレンチ）である。調査目的は、田沢遺跡と壬遺跡の間にトレンチを２箇所設定し、田沢遺跡の広がりと新たな遺物包含範囲の探求、堆積土層の確認を目的として調査を行った。

調査の結果、９トレンチでは土層上部は攪乱・盛土が厚く堆積していたが、その下に黒褐色土・漸移層が残存していることが確認された。出土した遺物は土器３点、石器４点で、土器のうち１点は押型文土器片、２点は小さな無文の土器片である。石器は剥片のみで、加工が施された痕跡はなかった。出土層位は上部と下部の境のため、自然堆積土からの出土かどうか詳細な検討が必要である。10トレンチでは表土の下に厚く黒褐色土が堆積し、黒褐色土中から石器１点、礫７点が出土した。出土石器は掻器である。９・10トレンチ共に黒褐色土が厚く堆積しており、漸移層やその下の土層まで掘削・精査することができなかったことから、雪解け後に追加調査を実施する予定である。

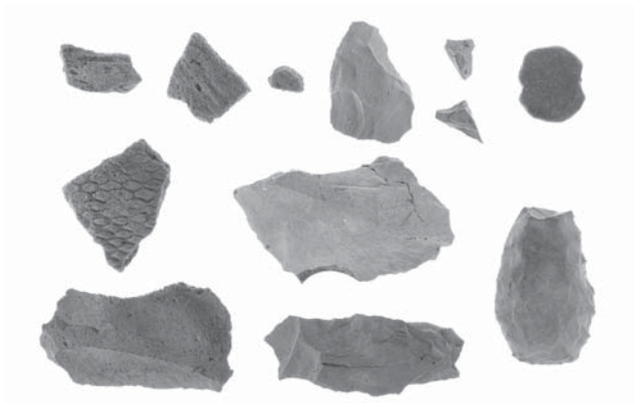

写真19　田沢遺跡　出土遺物
（上段：第５次、下２段：第６次）

９・10トレンチの堆積土を観察すると、①北東方向に向かって緩やかに傾斜、②表土以下の黒褐色土・漸移層が厚く堆積、という第２次調査で確認された押型文土器が出土した後背湿地側に向かう緩傾斜地と同様の地形および堆積土を表していると推察される。追加調査の状況を合わせて、今後より詳細に周辺微地形や堆積土層の検討を行う必要がある。　（笠井　洋祐）

３．笹山遺跡学術調査（発掘）事業

調査の経緯

笹山遺跡は信濃川右岸段丘上の標高170～180mに位置し、段丘編年上では完新世の沖積段丘である根深面上に立地する。遺跡は1980～1985年度（昭和55～60年度）に市営陸上競技場、笹山野球場、市道笹山線、市民スポーツハウス等の建設に伴って１～７次の本調査が実施され（十日町市教育委員会編1998）、また、2002～2004年度（平成14～16年度）にかけて範囲確認調査が実施された（十日町市教育委員会編2005）。2011年度（平成23年度）からは「国宝出土地・笹山遺跡の学術調査（発掘）事業」のもと、2011年～2015年のうち前３カ年の本調査を計画、実施しているところである。今年度の調査は本調査としては10次となった。

第10次調査は、小学校児童向けの表採活動を６月10日から28日まで行ったあと、９次調査の結果を参考にしつつ、一部継続する部分も含め、６月27日から11月22日まで実施した。面積は９次調査範囲の一部を含む約200㎡である。

発掘調査に関する成果

調査の結果、中世陶器の破片と縄文時代の遺構・遺物が検出された。また、縄文時代については試料を採取し、自然科学分析を実施した。

中世陶器は15～16世紀の碗皿類と推定されるが、破片が小さく詳細は不明である。

縄文時代の遺構は、竪穴住居跡３基が検出された。竪穴住居跡のうち１基は昨年度の第９次調査において部分検出されていたもので、今回の調査により竪穴住居跡であることが確定した。中期中葉の後半期のものと推定され、柱穴跡と石囲炉跡とを伴う。柱穴跡の形態と配列には注目すべき点があり、今後重ねて検討していく必要がある。他２基については、共に明確な掘り込みが検出されないまま床面に達した段階で発見された。一方は中期中葉から後葉のもので石組炉跡を伴うが、もう一方は検出範囲が推定される住居跡の範囲の一部であり、炉跡が検出できなかった。また、現状では時期もよく分かっていない。

縄文時代の遺物は土器（鉢類、土偶類）、石器（石鏃、石斧、石皿、磨･敲石、削器、剥片、石核など）、未焼成土器、ベンガラ塊などが検出された。また、各種炉跡内から土壌および炭化材を採取した。土器は整理中ながら、文様や器形から縄文時代中期前葉から後葉に帰属するものが認められ、第９次調査と同様、中葉から後葉の土器が中心をなすようである。石器は変わらず石斧が多く認められた。

自然科学分析については、015竪穴住居跡と022竪穴住居跡のそれぞれの炉跡から採取された炭化材について分析依頼を行ったところ、順に5100calBP前後、4800calBP前後の年代が得られた。また、015竪穴住居跡の炉内土壌からクルミやアズキの種子の一部が検出された。

普及・公開・交流に関する成果

各種の普及・公開・交流に関する活動については次のとおりである。

第９次調査成果報告会･遺物展示（６月２日：参加者91名/２回、見学者300名）、笹山夕日交流会（７月２日：40名）、市民グループ向け発掘体験会（10月６日：11人）第10次調査現地説明会（10月19日：60名）、やきもち焼きの土器焼き会（11月２日：20名、12月５日：10名）セクション―第10次調査速報展―（12月21日～２月２日：資料取得者100名）。

〈笹山縄文カレッジ〉 調査等の体験を主とした企画を「笹山縄文カレッジ」と総称し、そのなかで今年度は「みんなで掘る笹山遺跡」、「ささやまラボ」、「学校向けプログラム」の３つの企画を実施した。

「みんなで掘る笹山遺跡2013」は、一般参加の発掘体験ないしボランティアである。７月13・14日、20・21日、27・28日、８月３・４日、10・11日までの毎週土・日曜日、計５回開催した。各人は原

則として土・日曜日の２日間連続参加とし、土曜午前に研修（講義学習と発掘実習）を受けてから、発掘に参加するというスケジュールを組んだ（ただし再度参加する場合は２回目以降の研修を免除）。参加者数は延べ333人/半日（前年度比134%）となった。常連参加者が増え、調査への積極的関与が見られるようになっており、市民発掘の体制は次第に整いつつあるといえる。

「ささやまラボ2013」は、一般参加の整理作業体験（ミニ講座受講、注記・接合作業）である。２月22日、３月８・22日の計３回開催した。ミニ講座は好評だが、注記や土器接合については参加者が飽きやストレスを感じる場面が多く見受けられるため、開催時間を短くした。参加者数は、１回目10名、２回目９名、３回目12名で、計43名（前年度比72%）だった。参加者の減少は昨年度より回数を１回減らしたためである。

「学校向けプログラム」は、市内小学校を対象とした各種の授業である（６月10～28日）。内容と参加人数は、現地授業Ａ：表面採集調査（成果レポートの提出必須）・111名、同Ｂ：発掘調査・72名、出前授業Ａ：縄文時代とはどういう時代かを中心に学習する講義・48名、同Ｂ：班ごとにテーマを決めて取り組むグループワーキング・30名（/半日）。参加者合計は７クラス・クラブで261名（前年度比150%）だった。地元小学校が継続して行っている「縄文時代」の学習に体験的要素を加えたことで、相互作用的に深みをもたせられたと思われる。教諭の評価も高かった。しかし、短い授業時間内に移動時間も含むなど、授業内容が必ずしも十分なものとなりえないのが現状であり、改善の必要もある。

笹山遺跡保存整備検討委員会

事業の方針はこの会議で提示される意見を参考に決定されている。委員は赤塚次郎（愛知県埋蔵文化財センター）、阿部芳郎（明治大学）、小熊博史（長岡市教育委員会）、福島徳治（福島砂利生コン）、山本哲也（新潟県立歴史博物館）各氏で、24年度からはオブザーバーとして澤田敦氏（新潟県教育庁）を迎えている。年度内に３回の会議を開催した（６月３日、10月11日、２月14日）。　　（阿部　敬）

写真20　みんなで掘る笹山遺跡2013

写真21　セクション―笹山遺跡第10次調査速報展

写真22　やきもち焼きの土器焼き会

写真23　学校向けプログラム

４．埋蔵文化財発掘調査報告書作成事業

本事業では現在、平成８年に調査された野首遺跡の遺物整理作業を継続して行っている。遺跡は縄文時代中～後期の大規模環状集落で、土器捨て場より膨大な量の遺物が出土した。平成22年度には、第１分冊の『野首遺跡発掘調査報告書Ⅰ』〈遺構編〉が刊行されている。今後は、平成28年度に第２分冊・遺物編１（中期の土器・土製品／中・後期の石器・石製品）、平成30年度に第３分冊・遺物編２（後期の土器・土製品）を順次刊行する計画である。以下、これまでの整理作業の経過をまとめる。

出土した遺物の量は、平箱にして約2,500箱である。調査終了後の平成８年11月より水洗・注記作業に取りかかり、平成18年度に完了している。土器の復元作業もこれと同時に開始され、中期の土器については平成21年度にほぼ終了し、現在は後期の土器の作業を継続中である。これまでに復元された中期の土器は小型品を含め200点ほどで、火焔型土器11点と王冠型土器９点が含まれる。これらの他に半復元品がほぼ同数存在する。報告書の刊行に向けて、本格的な整理作業が始まったのは平成19年度からで、上記のとおり既に第１分冊（遺構編）が刊行されている。なお、第２分冊の作業分担は、土器・土製品が嘱託研究員１人、石器・石製品は主査１人である。

復元および半復元土器の図化作業は写真データを用いたデジタル実測で行い、撮影は小川忠博氏に委託した。その写真データをもとに担当がIllustrator（グラフィックソフト）で作図すると共に、一部を業者に作業委託し、これまでに約350点の実測が終了している。しかし、これらのみでは本遺跡の土器の実態を表していないため、今後は破片資料の実測が必要であり、現在、破片1,000点前後の抽出作業を進めている。なお、土偶など土製品の実測作業もこれと並行して行う。

石器・石製品の図化作業もデジタル実測（撮影：小川忠博氏）である。剥片石器は、プリント写真をもとに担当が実測原図を作成し、業者に原図のデジタルトレースを委託している。磨製石斧・石錘・石皿・砥石については、実測・トレースとも業者委託である。これまでに、石鏃、尖頭器、石匙、石錐、打製・磨製石斧、三脚石器、板状石器、楔形石器、石錘、石皿、砥石など約500点の実測が終了した。玉類・石棒および磨石類の実測はこれからであり、最終的に600点ほどを図版に掲載する予定である。

上記整理作業の中で専門家より指導を受けている。本年度は石器の石材鑑定と中期の土器について、それぞれ中村由克氏（野尻湖ナウマンゾウ博物館）、今福利恵氏（山梨県埋蔵文化財センター）、昨年度は中村由克氏、寺内隆夫氏（長野県教育委員会）に指導をお願いした。最後に本事業では、平成22年度より専門業者に委託して市内出土火焔型土器の解体修理を行っている。本年度は大井久保遺跡１点、昨年度は森上遺跡１点の土器を修理した。（菅沼　亘）

写真24　修理された火焔型土器（左：森上遺跡／右：大井久保遺跡）

⑵ 樽沢開田遺跡発掘調査報告書作成事業

①発掘調査概要

樽沢開田遺跡は新潟県十日町市樽沢乙41番地１ほかに所在する。遺跡は、信濃川左岸の河岸段丘上、信濃川の支流である宮沢川の右岸に立地し、標高は230～235ｍを測る。県営中山間地域総合整備（吉田地区）に伴い、平成21年５～10月に十日町市教育委員会により発掘調査が行われた。発掘調査費用（17,000,000円、うち新潟県16,150,000円、十日町市850,000円）は、新潟県と十日町市の間で平成21年５月１日付けで費用負担契約を締結した。

計1,407㎡の範囲が調査され、縄文時代後・晩期の集落跡が発見された。集落においては、石組炉２基、焼土31基、土坑10基、立石配石遺構１基、配石遺構６基、埋設土器９基、ピット類などが検出され、立石配石遺構は長さ６ｍを超える新潟県内最大級の大きさである。集落北側の土器捨て場からは土器・土製品、石器・石製品など多量の遺物が出土している。中でも、200個体を超える装飾性豊かな土製耳飾の発見が特筆される。なお、発掘調査体制は以下のとおりである。

調査担当　石原　正敏（文化財係主査）
調 査 員　小市　知子（文化財係主事）
補 助 員　石原　　俊　　上野　洋子　　角山　誠一　　酒井　和江
作 業 員　小川　和男　　蔵品　勝雄　　小林　栄吉　　小林　正和　　佐藤　　宏　　関口　勝江
　　関口　健三　　高橋　勝治　　高橋　国雄　　高橋四三郎　　田川　欣五　　種村　勝治
　　中村　春男　　西野　　進　　庭野　幸男　　羽鳥　正雄　　福原　健一　　柳　　守一

②整理調査概要

出土遺物の水洗・注記作業は平成24年度でほぼ終了した。土器の復元作業は、冨澤孝之が担当した。平成24年度は主に遺構図面の整理・編集、土器・石器の分類・抽出・実測作業、写真撮影を行った。平成25年度は引き続き遺物の分類・実測作業などと並行して、遺物の計測作業、版組、原稿執筆、報告書の編集・校正を行った。遺構平面図のトレースおよび編集は㈱十日町測量に委託した。復元土器、破片土器、土製品、石器、石製品の実測・トレースについては㈲アルケーリサーチに委託した。土器・土製品の拓本は河崎政治が、断面実測および製図については主として田村薫、阿部美記子が担当し、小林正和が補助した。

『樽沢開田発掘調査報告書』は本文96頁、図面図版112頁、写真図版72頁の計280頁からなる。平成24～25年度の整理調査費用（21,000,000円、うち新潟県19,950,000円、十日町市1,050,000円）は新潟県と十日町市の間で平成24年６月６日付け（第１次整理調査）、平成25年３月５日付け（第２次整理調査）で費用負担契約を締結した。年度別の整理調査体制は以下のとおりである。

平成21～23年度（2009～2011）
担　　当　石原　正敏（文化財係主査・平成21年度まで、平成22年度から文化財係長）
補 助 員　阿部美記子　　石原　　俊　　上野　洋子　　角山　誠一　　河崎　政治　　冨澤　孝之
平成24～25年度（2012～2013）
担　　当　石原　正敏（副参事兼埋蔵文化財係長）
臨時職員　角山　誠一　　田村　　薫
補 助 員　阿部美記子　　石原　　俊　　上野　洋子　　河崎　政治　　冨澤　孝之　　樋口　信一
作 業 員　小川　和男　　小林　正和　　田川　欣五　　西畔　克二　　羽鳥　クニ　　村山　和子
　　村山　宗一　　山田　晴子　　渡辺　ひろ

③まとめ

本遺跡は縄文時代後期中葉から晩期中葉に営まれた集落であり、信濃川上・中流域における後期から晩期の集落の様相を解明するうえで重要な遺跡である。限られた整理調査期間であったが、記録保存目的で行われた発掘調査成果をコンパクトかつ的確に収録できたと考えている。　　（石原　正敏）

Ⅳ．古文書等歴史資料整理事業

平成24年度より十日町情報館が指定管理となったことに伴う組織改編により、古文書等歴史資料に関わる事業が文化財課文化財保護係へと移管された。下記の事業は全て移管前からの継続事業である。

（平成24年度）

１．山内景行家写真資料の整理・活用

⑴ 十日町市古文書整理ボランティア写真チームによる整理作業

新潟県中越大震災での被災を機に、明治から100年の歴史を持つ「旧･山内写真館」の所蔵写真約48,000カットが十日町市に寄託された。これを受けて平成22年10月から、十日町市古文書整理ボランティア（＊）と十日町情報館が協働して、写真を活用できるようにするため、写真１点１点の内容情報（時代･場所･状況など）を調査し、写真資料カードに記録する作業に取り組んできた。その結果、平成24年３月までの第１期・第２期整理作業の結果、約4,000枚の資料カードを記入した。

今年度より十日町市文化財課が主管となり、平成24年５月から平成25年３月までを第３期整理作業として位置づけ、引き続き写真整理作業に取り組んだ。合計22回の活動を行い、のべ参加人数は386名、約4,000枚の資料カードを記入した。

＊十日町市古文書整理ボランティアとは、新潟県中越大震災で被災し、寄託・寄贈された古文書などの歴史資料を活用できるよう、整理・保存作業を行うために平成17年５月に結成されたボランティアグループである。メンバーは、市内外から集まった20歳代から90歳代の総勢80名である。旧・山内写真館所蔵の写真整理に取り組んでいるのは、その中の「写真チーム」、約40名である。

⑵ 第４回山内写真館資料写真展「よみがえる懐かしきくらし　昭和の十日町」の開催

会期：平成25年３月９日㈯～３月24日㈰　　会場：十日町情報館ギャラリー

写真整理作業の成果を公開し、さらなる情報収集を図るため、写真展を開催している。今年度で４回目となる。展示テーマは「まちのにぎわい」とし、昭和30年代を中心とした活気あふれるまちの情景のほか、山内景行氏の秘蔵写真を加え、約80点を展示した。情報収集のために配布したアンケートは、350枚の回答を得ることができた。開催日数13日間で、来場者数は約1,700人であった。

⑶ 写真データベースの試験公開「十日町市地域映像アーカイブ」

期間：平成25年３月28日㈭～５月６日㈪　　場所：十日町情報館地域資料コーナー

４年にわたり、写真の内容情報を収集・記録してきた成果として、約3,300件の写真データベースと、紙焼き写真約3,300枚および資料目録を、試験的に公開した。閲覧者からアンケートを記入していただくことにより、写真データベースの内容や利用の仕方などについての意見、また公開の基準についての建設的な意見を収集し、本格的運用に向けての参考とすることが目的である。

写真25　写真展会場風景

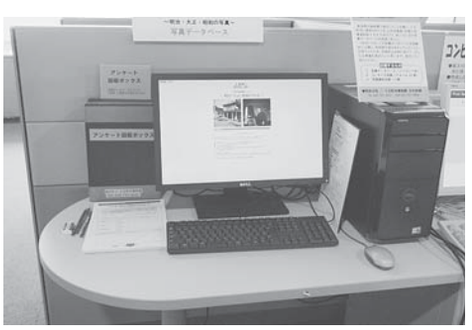

写真26　写真データベース閲覧用パソコン

⑷ 写真資料の活用

山内景行家写真資料は、現在、整理作業中であることから、利用にあたっては、学術・教育目的などの公共的利用に限って許可をしている。今年度の主な写真貸出は、以下のとおりである。

貸　出　先	掲　載　物　な　ど	写真の内容
十日町市総務課情報システム係	スマートフォン用アプリ「Layer」とおかまちナビ	市街地
十日町雪まつり実行委員会	第64回十日町雪まつりガイドブック	雪像
旅の文化研究所	『まほら』第74号	節季市
国立歴史民俗博物館	第４展示室リニューアルに伴う常設展示	節季市

第４表　山内景行家写真資料の主な貸出一覧

２．蕪木元昭家文書（加賀屋文書）の調査・研究

⑴ 加賀屋文書研究会

新潟県中越大震災で被災し、十日町市に寄託された62,000点の蕪木元昭家（縮問屋加賀屋）の歴史資料整理保存作業は、３年の歳月をかけて十日町情報館と市民ボランティアが共同して実施し、平成19年11月に歴史資料目録全８巻がまとめられ、研究活用の基盤が整えられた。そこで、資料群の全体的な内容解明と理解を深める中核的な人材育成を図り、あわせて資料研究と活用のさらなる素地づくりを進めるため、平成20年６月、加賀屋文書研究会が設立された。

研究会は月１回のペースで参集し、平成23年度までに合計44回が開催された。本年度もこれまで通り活動を続けていたが、平成24年10月、研究会の発起人で指導者でもある丸山克巳氏が急逝し、一時中断を余儀なくされた。世話人と事務局とで今後の進め方を検討した結果、再開が決まり、24年度は合計15回が開催された。

⑵ ふるさと歴史文化講座「江戸呉服問屋と加賀屋文書」の開催

日時：平成25年３月24日㈰　　会場：十日町情報館第１集会室

今年度６月より、公益財団法人三井文庫嘱託職員の賀川隆行氏が月１回（冬期を除く）来市し、情報館古文書整理室で加賀屋文書の調査を行っている。その中間報告を兼ねて、今後の加賀屋文書研究の展望や、江戸呉服問屋と加賀屋文書との関係について、ふるさと歴史文化講座を開催した。参加者は41名であった。

３．古文書等歴史資料の収集・整理

十日町市への寄託・寄贈資料のうち、古文書等歴史資料については、燻蒸後、情報館収蔵庫に保管し、整理作業を行っている。今年度の収集点数は、寄託１件、寄贈10件であった。

⑴ 相澤正彦家文書

長野県北部地震で被災し全壊した土蔵から救出された資料で、平成24年５月に市に寄託された。約3,000点の古文書の中から、相澤家の祖先が166年前（1847年）の善光寺地震に遭遇し、様々な人の助けを得て無事帰還したことが記録された木札が発見された。奇しくも長野県北部地震を機に、善光寺地震から生還した「先人の肉声」とも言える記録が再び世に出たことは、郷土史的にも学術的にも意義深いものと考えられる。記者発表が長野県北部地震発生から２年の時期と重なったこともあり、反響が大きかったため、５月６日㈰まで木札を情報館内に展示した。

（鈴木　えみ）

（平成25年度）

１．十日町市古文書整理ボランティア写真チームによる写真整理作業

５月から平成26年３月までを第４期整理作業とし、山内景行家写真資料を中心に整理作業を継続した。合計23回の活動を行い、のべ参加人数は約300名、約3,000枚の資料カードを記入した。

また８月17日㈯から31日㈯まで、「情報館まるごと体感フェア」の共催事業として、諏訪町・波間家写真資料展「むかしの十日町」を十日町情報館ギャラリーで開催した。山内写真館資料写真展と同じく、十日町市古文書整理ボランティア写真チームの整理作業の成果を広く公開することが目的である。大正末期から昭和初期にかけての写真50点を展示した。

２．第５回山内写真館資料写真展「昭和の十日町　雪と機（はた）と人びとの暮らし」の開催

会期：平成26年３月11日㈫～３月23日㈰　　会場：十日町情報館ギャラリー

５回目となる写真展を開催した。展示テーマは「雪と機（はた）と人びとの暮らし」とし、雪のある町並みや、昭和30年代の活気ある機屋とその社員の様子など、84点を展示した。情報収集のために配布したアンケートは、255枚の回答を得ることができた。開催日数13日間で、来場者数は約1,500人であった。

（鈴木　えみ）

写真27　写真整理作業風景

写真28　第５回写真展会場風景

３．古文書等歴史資料の収集・整理

⑴ 十日町市歴史資料目録の刊行

資料整理が終了した下記５資料群を「十日町市歴史資料目録11」として刊行した。

①田川町・佐藤慎一郎家資料　約550点
②松之山中尾・高橋平八郎家資料　約60点
③新座・大久保健家資料　約100点
④宮下・中林昌子家資料　約500点
⑤島・庭野俊道家資料　約440点

Ⅴ．その他

１．博物館教育普及事業

教育普及事業は、大きく分けて展示、講座、子ども博物館（体験教室）の３つから成り、本年度の事業実績は第５表のとおりである。以下、主要な事業を紹介する。

夏季企画展は、平成24年２月に逝去された樋熊清治氏（元十日町市文化財保護審議会委員）の昆虫標本コレクション展を行った。同氏の標本資料は、十日町市はもとより新潟県内の自然環境を語る上で貴重な財産である。約800点におよぶ標本の中から、信濃川中流域のものを中心に80点を展示した。また、夏休み期間中であったことから、市内の小学生全員に無料招待券を配布している。

秋季特別展は、写真家・小川忠博氏撮影の写真パネルと新潟・長野・山梨・群馬県内の遺跡から出土した衣食住に関わる遺物を展示して、縄文人の生活をわかりやすく紹介した。また、国宝に指定されている縄文時代の遺物５件(棚畑遺跡土偶・風張Ⅰ遺跡土偶・著保内野遺跡土偶・西ノ前遺跡土偶・笹山遺跡火焔型土器）のレプリカを一堂に集めている。10月５日㈯には記念講演会を行った。

写真29　夏季企画展「箱の中の虫」

写真30　秋季特別展「ビジュアル縄文博物館」

事　業	内　容	日時（期間）	会　場	参集者数
春季企画展	「縄文の夜神楽　滋澤雅人・縄文遺産写真展」 (共催：信濃川火焔街道連携協議会)	3/28㈭～5/18㈯	特別展示室	2,244
夏季企画展	「箱の中の虫　－昆虫博士・樋熊清治氏標本コレクション展－」 (共催：博物館友の会)	7/20㈯～8/25㈰		2,299
秋季特別展	「ビジュアル縄文博物館　－縄文人の衣食住、そして土器－」 (共催：博物館友の会・信濃川火焔街道連携協議会)	9/21㈯～11/10㈰		2,682
	記念講演会：①「縄文時代を撮ってまとめる」小川忠博氏（写真家） ②「中部高地の土器に現れた物語性文様」小野正文氏 （甲州市教育委員会文化財指導監）	10/5㈯	十日町情報館（集会室）	35
移　動　展	「野首遺跡展」	6/9㈰	下条公民館上新田分館	70
	「珠川台地の縄文遺跡」	8/17～9/27	ホテル ベルナティオ・森のホール	350
	「野首遺跡展」（共催：下条公民館文化祭）	11/3㈰	下条公民館	300
巡　回　展	「子ども縄文研究展 2013」 (信濃川火焔街道連携協議会・博学連携プロジェクト)	H26.1/18㈯～2/16㈰	特別展示室	1,219
特設展示	①「縄文土器の変遷」	4/6㈯～6/2㈰	1階ロビー	2,855
	②「遺跡が語る古代のにいがた」（共催：新潟県教育委員会）	6/22㈯～9/1㈰		3,662
	③「昔の着物と道具」	H26.2/8日㈫～3/30㈰		
貸　館	「十日町市書道協会展」（主催：十日町市書道協会）	5/31㈮～6/2㈰	特別展示室	148
博物館講座	テーマ：「郷土の遺産Ⅱ　自然」	（全３回）	特別展示室	
	①「段丘に記録されている自然災害を考える」 卜部厚志氏（新潟大学災害・復興科学研究所）	6/15㈯		12
	②「雪里・十日町市の特徴的な昆虫たち」 鶴　智之氏（越後松之山・森の学校キョロロ）	6/22㈯		10
	③「多雪地の植物たちの多様な生き方とそのめぐみ」 小林　誠氏（越後松之山・森の学校キョロロ）	6/29㈯		13
古文書入門講座	講師：林　悦郎氏（友の会・古文書グループ）	6～3月（全17回）	会議室	18(受講者)
特別講演会	「縄文と古代エジプト文明」　吉村作治氏（エジプト考古学者）	7/25㈭	情報館（視聴覚ホール）	151
子ども博物館	①縄文体験「編み布・コハクの勾玉づくり」	8/3㈯	特別展示室	10
	②縄文体験「土器づくり」	10/19㈯	会議室	7
	③縄文体験「どんぐりクッキーづくり」	12/7㈯	特別展示室	9
博物館実習	新潟産業大学(1)・東海大学(1)・東京農業大学(1)	8/1㈭～7㈬		3

第５表　平成25年度 博物館教育普及事業一覧

特設展示は、１階ロビー・壁面展示ケースの資料を定期的に入れ替えて、入館者およびリピーターの増加を図るものである。「遺跡が語る古代のにいがた」は、新潟県教育委員会との共催で行われ、平成24年度より始まった越後国域確定1300年記念事業（主催:県教育委員会）の一つである。これに先行して行われていた㈶新潟県埋蔵文化財調査事業団での展示を縮小・再構成して巡回展示している。

写真31　特設展示「遺跡が語る古代のにいがた」

移動展は、下条公民館と同上新田分館の２か所で「野首遺跡展」を実施した。それぞれでは、展示説明会と遺跡調査報告会も合わせて行っている。巡回展「子ども縄文研究展」は、今年度で11年目をむかえた。当館も一員の信濃川火焔街道連携協議会・博学連携プロジェクトでは、10年間の活動記録をまとめた記念誌「地域をつなぐ―火焔街道博学連携プロジェクトの10年―」（非売品）を刊行している。

写真32　子ども博物館「どんぐりクッキーづくり」

博物館講座は、昨年より始まった郷土の遺産シリーズのパート２として自然をテーマにし、地質、昆虫、植物について学び、夏季企画展への導入とした。子ども博物館は昨年度と同様であるが、勾玉の材料をこれまでの滑石から琥珀（体験キットを購入）に替えている。どんぐりクッキーづくりでは、国産のドングリ粉（市販品）を使用した。博物館実習は、市内出身者１人、南魚沼市出身者２人の大学生を受け入れている。最後に平成24年度の事業実績は、第６表のとおりである。　（菅沼　亘）

事　業	内　容	日時（期間）	会　場	参集者数
夏季企画展	「四大麻布　－越後縮・奈良晒・高宮布・越中布の糸と織り－」 （共催：博物館友の会）	7/21㈯～8/19㈰	特別展示室	3,515
秋季特別展	「異形の縄文土器」 （共催：博物館友の会・信濃川火焔街道連携協議会）	9/22㈯～11/4㈰	特別展示室	2,178
	記念講演会「縄文中期の釣手土器　－長野県を舞台に－」 講師：綿田弘実氏（長野県埋蔵文化財センター）	10/27㈯	１階ロビー	36
冬季企画展	①「東洋の古銭展」（西野繁氏コレクション）	11/23㈮～12/12㈬	特別展示室	508
	②「昭和の残映　－博物館に寄贈された昔の資料－」 （共催：博物館友の会）	H25.2/2㈯～3/3㈰		3,843
移　動　展	「縄文の華 十日町市の国宝・火焔型土器」 （共催：星と森の詩美術館）	8/3㈮～9/30㈰	星と森の詩美術館	897
巡　回　展	「子ども縄文研究展 2012」 （信濃川火焔街道連携協議会・博学連携プロジェクト）	12/15㈯～1/20㈰	特別展示室	425
貸　館	「十日町市書道協会展」（主催：十日町市書道協会）	6/1㈮～3㈰	特別展示室	154
博物館講座	テーマ：「郷土の遺産Ⅰ　越後縄」	（全３回）	特別展示室	
	①「越後縮の歴史　－十日町を中心に－」 竹内俊道氏（前博物館長）	6/16㈯		30
	②「御用縮の世界　－受注から納品まで－」 丸山克巳氏（市文化財保護審議会委員）	6/23㈯		35
	③「越後縮と江戸時代の麻布産地」 吉田真一郎氏（近世麻布研究所）	6/30㈯		30
古文書入門講座	講師：丸山克巳氏（6～10月）・林　悦郎氏（1～3月）	6～3月（全15回）	会議室	23(受講者)
子ども博物館	①縄文体験「編み布・勾玉づくり」	8/4㈯	会議室	5
	②縄文体験「土器づくり」	10/13㈯		10
	③縄文体験「どんぐりクッキーづくり」	12/8㈯	特別展示室	9
博物館実習	日本女子大学(1)・川村学園女子大学(1)・新潟産業大学(2)	8/2㈭～8㈬		4

第６表　平成24年度 博物館教育普及事業一覧

２．文化財資料の保存と活用

⑴ 実物資料の貸出

平成24年度の考古資料以外の実物資料の貸出は、17件であった。主な内容は、以下のとおりである。

貸　出　先	目　的	貸 出 資 料
十日町織物工業協同組合	産地研修会で使用	明石縮、越後縮、アンギン、ほか
道の駅南魚沼内今泉記念館	十日町市の紹介として展示	火焔型土器（レプリカ）、着物
全国川西会議	全国川西会議総会にて展示	児玉輝彦作・屏風
十日町市商店街振興組合連合会	産業フェスタ2012にて展示	十日町の昔の写真（パネル）
西小学校	社会科の学習で使用	スゲボシ、スッポン、ほか

第７表　実物資料の主な貸出一覧（平成24年度）

平成25年度の考古資料以外の実物資料の貸出は、22件であった。主な内容は、以下のとおりである。

貸　出　先	目　的	貸　出　資　料
新潟県立歴史博物館	秋季企画展『石仏の力』にて展示	阿部家文書「庚申ノ供養塔之事」
津南町農と縄文の体験実習館「なじょもん」	春季企画展『島田先生卒寿記念三会合同展―書・石仏・古文書―』にて展示	相澤家文書・木札、川治区有文書・貝野村離縁状
星と森の詩美術館	『生誕100年星襄一展Ⅲ』にて展示	星襄一「大樹」主版版木
東京都写真美術館、ほか３館巡回	『夜明けまえ　知られざる日本写真開拓史　北海道・東北編』にて展示	杉本周徳写真資料６点
㈱テレビマンユニオン	NHK BSプレミアム『BS歴史館』にて放映	越後縮、カラムシの繊維、綛にしたカラムシ糸ほか
十日町織物工業協同組合	『十日町絣・十日町明石ちぢみ伝統的工芸品指定30周年記念特別展』にて展示	明石縮、越後縮、マジョリカお召、黒絵羽織、アンギン編み工具、アンギン袖なし
市島酒造株式会社	雛祭りにちなんで展示	花嫁衣装一式

第８表　実物資料の主な貸出一覧（平成25年度）

⑵ 写真資料の貸出

平成24年度の写真資料の貸出および掲載許可の件数は、第９表のとおりである。貸出・許可した写真の主な内容は、指定文化財である国宝・火焔型土器、越後アンギンのほか、野首遺跡出土品、館内のジオラマである「縄文ムラのくらし」、児玉輝彦作・屏風絵、十日町の昔の写真などである。

主　な　貸　出　先	写真等貸出	掲載許可	計
㈱西脇商店、東京書籍㈱、㈱ベネッセ・コーポレーション、㈱新潮社 芸術新潮編集部、㈱しなのき書房、㈱平凡社、明治図書出版㈱、MOKU出版㈱、光村図書出版㈱　ほか	34	54	86

第９表　写真資料等の貸出一覧（平成24年度　※山内景行家写真資料を除く）

平成25年度の写真資料の貸出および掲載許可の件数は、第10表のとおりである。貸出・許可した写真の主な内容は、指定文化財である国宝・火焔型土器、越後アンギンのほか、雪室の製作工程、館内のジオラマである「縄文ムラのくらし」などである。

主　な　貸　出　先	写真等貸出	掲載許可	件数※
㈱八海山、㈱ベネッセ・コーポレーション、㈱浜島書店、㈱平凡社、㈱学研パブリッシング、㈱テレビ朝日、㈱新泉社、㈱美術出版社、光村図書出版㈱　ほか	51	50	100

第10表　写真資料等の貸出一覧（平成25年度）

※申請者一人に対して、写真貸出と掲載許可の両方を行う事例があったため、合計数は一致しない。

資　料

十日町市の指定文化財一覧

平成26年3月31日現在

［国宝］

番号	種　別	名　　称	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	備　　考
1	考古資料	新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器　57点 （附 土器・土製品類・石器・石製品類・ベンガラ魂 871点）		平11.6.7	西本町１	十日町市（博物館）	縄文時代

［国指定重要文化財］

番号	種　別	名　　称	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	備　　考
2	建造物	松苧神社本殿	1棟	昭54.5.31	犬伏	松苧神社	明応6年
3	建造物	星名家住宅	7棟	平3.5.31	上野甲	星名四郎	天保13年
4	有形民俗	越後縮の紡織用具及び関連資料	2,098点	昭61.3.31	西本町１	十日町市（博物館）	江戸～明治
5	有形民俗	十日町の積雪期用具	3,868点	平3.4.19	西本町１	十日町市（博物館）	江戸～昭和30年代
6	名勝天然記念物	田代の七ッ釜		昭12.6.15	田代	十日町市・津南町	
7	名勝天然記念物	清津峡		昭16.4.23	小出	十日町市・湯沢町	

［国登録有形文化財］

番号	種　別	名　　称	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	備　　考
1	建造物	西永寺本堂	1棟	平12.10.18	上野甲		嘉永元年頃
2	建造物	西永寺経蔵	1棟	平12.10.18	上野甲		嘉永元年頃
3	建造物	西永寺鐘楼	1棟	平12.10.18	上野甲		嘉永元年頃
4	建造物	西永寺庫裏及び廊下	1棟	平12.10.18	上野甲		嘉永元年頃
5	建造物	六和亭（旧永徳寺本堂）	1棟	平12.10.18	上野甲		安政4年
6	工作物	星名家住宅雪穴	1基	平14.6.25	上野甲		江戸期
7	建造物	凌雲閣松之山ホテル木館	1棟	平17.7.12	天水越		昭和12年
8	建造物	第二藤巻医院本館	1棟	平22.9.10	上野甲		昭和9年
9	工作物	第二藤巻医院石垣	1基	平22.9.10	上野甲		昭和9年

［新潟県指定文化財］

番号	種　別	名　　称	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	備　　考
1	建造物	神宮寺観音堂・山門	2棟	平3.3.29	四日町	神宮寺	江戸期
2	絵画	山水図釧雲泉筆六曲屏風	1双	昭29.2.10	山本	関口芳央	江戸末期
3	彫刻	木造十一面千手観音立像	1躯	昭46.4.13	四日町	神宮寺	平安後期
4	彫刻	木造四天王立像（伝広目天・伝毘沙門天）	2躯	昭49.3.30	四日町	神宮寺	平安末期
5	考古資料	伊達八幡館跡出土品	281点	平20.3.25	西本町１	十日町市（博物館）	中世
6	考古資料	久保寺南遺跡出土品	309点	平22.3.23	西本町１	十日町市（博物館）	縄文草創期
7	有形民俗	越後縮幡	74旒	昭49.3.30 （追50.3.29）	吉田山谷ほか	吉田社 他6社 （博物館）	江戸～明治期
8	史跡	大井田城跡		昭53.3.31	中条	十日町市	南北朝期
9	天然記念物	赤谷十二社の大ケヤキ	1本	昭33.3.5	赤谷	赤谷十二社	幹囲10.1m
－	天然記念物	中尾の大杉	1本	昭33.3.5	中尾	中尾地区	平24.3.5 指定解除
10	天然記念物	小貫諏訪社の大スギ	1本	昭53.3.31	小貫	諏訪神社	幹囲8.33m
11	天然記念物	角間のねじり杉	1本	昭60.3.29	角間	角間地区	

［新潟県選定保存技術］

番号	種　別	名　　称	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	備　　考
－	選定保存技術	屋根葺（茅葺）		平12.3.24	十日町・太平	斎木春治・ 市川新一郎　他2名	神宮寺・ 松苧神社

［十日町市指定文化財］

番号	種　別	名　　称	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	備　　考
1	建造物	千手観音堂仁王門	1棟	昭54.6.23	友重	長徳寺	寛延2年
2	建造物	智泉寺山門	1棟	平6.3.23	昭和町3	智泉寺	江戸中期
3	建造物	観泉院山門	1棟	平7.3.24	土市	観泉院	江戸中期
4	建造物	旧室岡家住宅（十日町市まつだい郷土資料館）	1棟	平23.4.26	松代	十日町市	
5	絵画	一遍上人絵詞伝	8巻	昭54.9.12	川原町	小林賢有	江戸中期
6	絵画	板絵	1対	平4.12.14	犬伏	松苧神社	明応3年
7	絵画	群馬図屏風 雲谷等顔筆 六曲一双	1双	平23.4.26	松之山	十日町市 （松之山小学校）	
8	彫刻	木造狛犬	2躯1対	昭45.8.7	犬伏	松苧神社	応永10年
9	彫刻	木造馬頭観音坐像	1躯	昭45.8.7	犬伏	白馬観音堂	応永10年
10	彫刻	銅造阿弥陀如来立像	1躯	平1.12.14	蒲生	中村栄作	鎌倉期
11	彫刻	木造聖観音坐像	1躯	平4.12.14	海老	海老区	慶長期
12	彫刻	銅造十三仏像	1躯	平4.12.14	松代	長命寺	桃山期
13	彫刻	鉄造聖観音立像	1躯	平3.2.1	松之山	陽広寺	鎌倉末～南北朝

14	彫刻	木造延命地蔵菩薩立像	1躯	平3.2.1	観音寺	観音寺	桃山期
15	彫刻	銅造地蔵菩薩立像	1躯	平3.2.1	天水越	天水越不動堂	永禄9年
16	彫刻	木造聖観音立像	1躯	平3.2.1	中尾	中尾観音堂	桃山～江戸前
17	彫刻	木造阿弥陀如来立像	1躯	平8.3.21	川原町	来迎寺	鎌倉後期
18	彫刻	木造聖観音立像	1躯	平13.3.22	新宮	竜王山講中	戦国期末
19	工芸品	短刀(備州兼光作)	1口	昭45.8.7	犬伏	松苧神社	戦国期
20	工芸品	軍配	1握	昭45.8.7	犬伏	松苧神社	戦国期
21	工芸品	雲板	1面	昭45.8.7	室野	洞泉寺	康正2年銘文 寛政2年再鋳
22	工芸品	越後縮裂見本帳	2冊	昭47.11.28	本町	蕪木孫右	江戸期
23	工芸品	神輿	1基	昭56.2.26	犬伏	犬伏区	安土桃山期
24	工芸品	十日町織物歴代標本帳	47冊	昭62.2.23 (追平1.2.16)	西本町1	十日町織物工業協同組合（博物館）	明治25年～昭和13年 明治42年～昭和8年
25	工芸品	雲板	1面	平7.8.24	倉俣	東光寺	嘉吉元年 銘文に波多岐荘
26	工芸品	宮本茂十郎手織の透綾(絹縮)裂地	3点	平13.3.22	西本町1	十日町織物工業協同組合（博物館）	江戸末期 金登屋「雛形帳」のうち
27	古文書	堀監物直政書状・松平忠輝家老衆定書	1幅	平3.2.1	松之山	村山芽久美	
28	古文書	松苧神領肱平一村売渡証文	1通	平6.12.15	松代	宮沢正翁	
29	古文書	松平忠輝宛行状	1通	平7.8.24	堀之内	南雲三代治	物在堀之内
30	古文書	田沢村天和検地帳 附：宝暦検地帳20冊、その他検地帳11冊	29冊	平7.8.24	西本町1	十日町市（博物館）	原本
31	古文書	太子堂村検地帳	4冊	平12.3.21	西本町1	若井基八郎(博物館)	中世～
32	考古資料	長徳寺板碑	1基	昭51.3.3	友重	長徳寺	応長元年
33	考古資料	鶴吉釈迦堂の自然石板碑	6基	昭51.3.3	鶴吉	鶴吉地区	貞和5年､正平9､15年
34	考古資料	山田観音堂跡の自然石板碑	4基	昭51.3.3	霜条	霜条地区	正平6年　他
35	考古資料	坪山神社の自然石板碑	1基	昭51.3.3	坪山	坪山地区	正平8年
36	考古資料	月見ヶ原公園の自然石板碑	1基	昭51.3.3	伊勢平治	長徳寺	南北朝期
37	考古資料	友重行者堂の自然石板碑	1基	昭51.3.3	友重	白山神社	正平14年
38	考古資料	北田如意庵の自然石板碑	3基	昭51.3.3	仁田	仁田地区	正平14年　他
39	考古資料	三領の自然石板碑	4基	昭51.3.3	三領	水品仁呉	南北朝期(2基)
				昭60.5.28		水品仁呉、高橋一	南北朝期
40	考古資料	霜条の自然石板碑	2基	昭51.3.3	霜条	蔵品完三	南北朝期
				昭51.8.25		丸山高夫	
41	考古資料	鶴吉の自然石板碑	1基	昭51.3.3	鶴吉	田村清仁	正平8年
42	考古資料	中屋敷の自然石板碑	1基	昭51.3.3	中屋敷	山崎和雄	南北朝期
43	考古資料	野口の自然石板碑	1基	昭52.2.27	野口	村越勝	南北朝期
44	考古資料	元町の自然石板碑	2基	昭60.5.28	上野	押木栄二	南北朝期
45	考古資料	仁田の自然石板碑	3基	昭60.5.28	仁田	吉井正司、高橋セツ、小幡藤吉	南北朝期
46	考古資料	木落の自然石板碑	1基	昭60.5.28	木落	和久井富夫	南北朝期
47	考古資料	桐山の自然石板碑	2基	平1.12.14	桐山	十二神社	文和4.5年
48	考古資料	馬場上遺跡出土品	一括	平2.2.22	西本町1	十日町市（博物館）	古墳時代中期 ～平安時代
49	考古資料	笹山遺跡出土品(国指定分を除く)	一括	平2.2.22	西本町1	十日町市（博物館）	縄文時代～中世
50	考古資料	伊達八幡館跡出土品(県指定分を除く)	一括	平11.3.16	西本町1	十日町市（博物館）	中世
51	考古資料	幅上遺跡出土品	一括	平12.3.21	西本町1	十日町市（博物館）	縄文時代
52	考古資料	干溝遺跡出土隆起線文土器	1点	平24.3.22	西本町1	十日町市（博物館）	縄文時代
53	歴史資料	松苧神社の俳句献額	1面	平1.12.14	犬伏	松苧神社	寛政10年
54	歴史資料	神宮寺観音堂の俳句献額	1面	平14.3.22	四日町	神宮寺	明和元年
55	歴史資料	諏訪神社の俳句献額	1面	平14.3.22	諏訪町	諏訪神社	安永7年
56	歴史資料	縮問屋加賀屋蕪木家資料	一括	平22.3.18	西本町1	蕪木元昭	江戸後期
57	風俗慣習	婿投げ		平3.2.1	湯本･天水越	湯本・天水越地区	
58	風俗慣習	スミぬり		平3.2.1	湯本	湯本地区	
59	風俗慣習	新水のドウラクジンとハネッケェーシ		平7.3.24	新水	新水地区	道楽神･羽根返し
60	風俗慣習	水沢の石場かち		平15.3.24	土市	水沢地区伝統芸能保存会	
61	民俗芸能	赤倉神楽		昭51.11.8	赤倉	赤倉神楽保存会	
62	民俗芸能	室野神楽		昭56.2.26	室野	室野神楽保存会	
63	民俗芸能	苧島神楽		昭56.2.26	苧島	苧島神楽保存会	
64	民俗芸能	田代神楽		昭57.4.1	田代	田代神楽保存会	
65	民俗芸能	中条大の坂		昭59.1.26	中条旭町	中条大の坂保存会	
66	民俗芸能	新保広大寺節		昭59.1.26	下条本町	新保広大寺節保存会	
67	民俗芸能	上川手歌舞伎		平11.7.21	上川手	上川手歌舞伎保存会	
68	民俗芸能	千手露香		平12.7.19	千手	千手露香保存会	
69	民俗芸能	野口神楽		平13.3.16	野口	野口伝統芸能保存会	
70	有形民俗	越後アンギン及び関係資料	一括	平11.3.16	西本町1	十日町市(博物館)	江戸～明治時代
71	史跡	犬伏城跡		昭45.8.7	犬伏	犬伏区	
72	史跡	蒲生城跡		昭45.8.7	蒲生	蒲生区	
73	史跡	室野城跡		昭45.8.7	室野	室野区	

74	史跡	四日町神宮寺境内地及び山林		昭47. 11. 28	四日町	神宮寺	江戸期
75	史跡	節黒城跡		昭50. 2. 26	新町新田	十日町市	室町期
76	史跡	大黒沢正平在銘梵字碑	1基	昭51. 1. 10	大黒沢	村山キノエ	南北朝期
77	史跡	鉢の石仏		昭53. 1. 28	鉢	鉢石仏保存会	江戸期　民間信仰地
78	史跡	笹山遺跡		平4. 12. 3	中条上町	岩田栄十郎　他	縄文～中世
79	史跡	羽川城跡		平10. 3. 25	麻畑	羽川城跡保存会	戦国期
80	名勝	積翠荘		昭55. 4. 11	吉田山谷	酒井うめ子	江戸期
81	名勝	岩見堂		平3. 2. 1	浦田	十日町市	
82	天然記念物	元町諏訪神社の親子スギ	2本	昭50. 2. 26	上野	元町諏訪神社	幹周　5.37m
83	天然記念物	海老の牛池		昭56. 2. 26	海老	海老区	
84	天然記念物	松代田沢十二社の大ケヤキ	1本	昭56. 2. 26	松代田沢	十二神社	幹周　7.03m
85	天然記念物	松代田沢十二社の大イチョウ	1本	昭56. 2. 26	松代田沢	十二神社	幹周　5.03m
86	天然記念物	長命寺の大イチョウ	1本	昭56. 2. 26	松代	長命寺	幹周　8.45m
87	天然記念物	寺田の大カエデ	1本	昭56. 2. 26	寺田	井上政身	幹周　2.66m
88	天然記念物	姿箭放神社の大ケヤキ	1本	昭63. 7. 20	姿	箭放神社	樹齢約560年 幹周5.43m
89	天然記念物	高靇神社社叢		平1. 10. 3	背戸	高靇神社	
90	天然記念物	ニッポンシロウリガイ化石	1塊	平1. 12. 14	松代	十日町市	
91	天然記念物	洞泉寺の大ケヤキ	1本	平1. 12. 14	室野	洞泉寺	幹周　6.90m
92	天然記念物	室野松苧神社の大スギ	1本	平4. 12. 14	室野	室野松苧神社	幹周　5.07m
93	天然記念物	小谷の大ケヤキ	1本	平3. 2. 1	小谷	小谷地区	幹周　6.50m
94	天然記念物	大荒戸の庚申夫婦スギ	2本	平3. 2. 1	大荒戸	大荒戸地区	幹周6.70m　5.10m
95	天然記念物	天水山麓のブナ原生林		平3. 2. 1	天水越	十日町市	50ha
96	天然記念物	安養寺松尾神社の大スギ	1本	平4. 3. 21	安養寺	安養寺地区	樹齢約500年 幹周7.99m
97	天然記念物	安養寺円通庵の三本スギ	3本	平4. 3. 21	安養寺	安養寺地区	樹齢約500年西側から幹周7.44m 6.18m 3.89m
98	天然記念物	枯木又竜王社の三本スギ	3本	平6. 3. 23	枯木又	東西枯木又	西側から幹周4.43m 4.35m　6.00m
99	天然記念物	枯木又竜王池		平6. 3. 23	枯木又	東西枯木又	
100	天然記念物	渋海川河床の甌穴群		平9. 3. 11	松代田沢	新潟県	
－	天然記念物	入山のカスミザクラ	1本	平9. 3. 24	入山	山本丑松	平25.3.25 指定解除
101	天然記念物	藤沢熊野神社の二本スギ	2本	平9. 4. 28	藤沢	藤沢熊野神社奉賛会	左幹周5.36m　右4.93m
102	天然記念物	田戸十二社の二本スギ	2本	平9. 4. 28	田戸	田戸区長	左幹周4.84m　右4.67m
103	天然記念物	白倉のカスミザクラ	1本	平10. 4. 27	小白倉	十日町市	幹周3.84m
104	天然記念物	程島　下の行者の大ケヤキ	1本	平22. 3. 18	程島	南雲敏晴	幹周9.23m
105	天然記念物	葎沢十二社の大スギ	1本	平22. 3. 18	葎沢	十二社	幹周7.12m
106	天然記念物	重地の大池	1本	平23. 4. 26	重地	重地地区	
107	天然記念物	太田島小牧社の大ケヤキ	1本	平24. 3. 22	太田島	小牧社	幹周6.75m
108	天然記念物	名ケ山の鶴沼池		平26. 3. 14	名ケ山	名ケ山生産森林組合	周囲約250m

［十日町市指定地域文化財］

番号	種　別	名　　称	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	備　　考
1	地域文化財	松代城跡		昭45. 8. 7	松代	松代区	
2	地域文化財	蓬平城跡		昭45. 8. 7	蓬平	蓬平区	
3	地域文化財	千手観音堂仁王像	2躯	昭54. 6. 23	友重	長徳寺	江戸中期
4	地域文化財	鏡ヶ池		昭54. 7. 25	中尾	中尾地区	
5	地域文化財	標旗	1旒	昭55. 4. 11	六箇山谷	祇園寺	江戸初期
6	地域文化財	苧島の石地蔵	1躯	昭56. 2. 26	苧島	苧島区	昭和7年
7	地域文化財	洞泉寺の子育て地蔵	1躯	昭56. 2. 26	室野	洞泉寺	
8	地域文化財	道元禅師絵伝	双幅	昭56. 2. 26	千年	普門庵	嘉永7年
9	地域文化財	犬伏裸太鼓		昭56. 2. 26	犬伏	犬伏裸太鼓保存会	
10	地域文化財	木造不動明王立像	1躯	平1. 12. 14	室野	洞泉寺	戦国末左腕欠
11	地域文化財	神像（伝善財童子）	3躯	平1. 12. 14	桐山	十二神社	
12	地域文化財	釈迦涅槃図	1幅	平4. 12. 14	犬伏	犬伏区	
13	地域文化財	木造狛犬（黒倉十二神社）	2躯1対	平3. 2. 1	黒倉	黒倉十二神社	桃山
14	地域文化財	西之前遺跡出土品	1括	平3. 2. 1	松之山	市松之山公民館	縄文後、古・中
15	地域文化財	木造十王像	10躯	平3. 2. 1	藤倉	正法寺	室町後～江戸初
16	地域文化財	木造狛犬（天水越松苧神社）	2躯1対	平3. 2. 1	天水越	天水越松苧神社	桃山
17	地域文化財	上杉塚跡（管領塚）		平3. 2. 1	天水越	十日町市(松里小学校)	碑大正4年
18	地域文化財	苧島三十三観音像	25躯1括	平7. 12. 5	苧島	苧島区	
19	地域文化財	木造十王像	6躯	平7. 12. 5	儀明	儀明区	
20	地域文化財	桔梗原新田用水路絵図	1通	平16. 10. 18	上山	中里土地改良区	
21	地域文化財	奴奈川村道路元標	1基	平4. 12. 14	室野	室野区	大正8年
22	地域文化財	枯木又のカスミザクラ	1本	平6. 3. 23	枯木又	東西枯木又	
23	地域文化財	石像道しるべ	3基	平7. 12. 5	菅刈・蒲生	菅刈区・蒲生区	江戸期
24	地域文化財	越後アンギン製作技術		平11. 3. 16	西本町1	越後アンギン伝承会	
25	地域文化財	劼平のお葉付イチョウ	1本	平4. 12. 14	劼平	高橋宏至	
26	地域文化財	寺田の白フジ	1本	平4. 12. 14	寺田	井上功	

２．埋蔵文化財関係データ

	十日町地区	川西地区	中里地区	松代地区	松之山地区	計
平成17年４月現在	248	84	68	47	48	495
平成17年度新規登録		40		5	1	46
平成18年度新規登録	1		1			2
平成19年度新規登録			4			4
平成20年度新規登録		2	7			9
平成21年度新規登録			2			2
平成22年度新規登録	2		3			5
平成23年度新規登録	1		1			2
平成24年度新規登録	1		1			2
平成25年度新規登録						0
計	253	126	87	52	49	567

第14表　各地区の登録遺跡数の推移

	十日町地区	川西地区	中里地区	松代地区	松之山地区	計
遺物包含地・散布地	155	81	73	17	10	336
集落跡	27	0	7	0	0	34
城館跡	36	11	6	7	4	64
社寺跡	2	0	0	2	0	4
塚・経塚	32	12	1	25	34	104
板碑・石碑・石塔	1	22	0	1	1	25
計	253	126	87	52	49	567

第15表　登録遺跡の種別内訳

	十日町地区	川西地区	中里地区	松代地区	松之山地区	計
旧石器時代	4	1	7	0	0	12
縄文時代	148	76	71	16	9	320
弥生時代～古代	10	1	0	0	0	11
中世～近世	55	20	8	8	4	95
不明	36	28	1	28	36	129
計	253	126	85	52	49	567

※複合遺跡は主要時期のみをカウント

第16表　登録遺跡の時代別内訳

調査原因		本調査	確認	試掘	備考
道路	国道・県道・市道	21	2	18	貝野久保遺跡、真萩田遺跡（1次、2次）、上屋敷遺跡（1次、2次）、貝野大道下遺跡、貝野沖遺跡、溝遺跡、尾崎館跡、尾崎館跡隣接地、貝野沢田遺跡（1～4次）、干溝東遺跡（1次、2次）、橋詰居村遺跡（1次、2次）、小原遺跡（1次、2次）、おざか清水遺跡（1次、2次）、原遺跡
	広域農道・林道ほか	0	2	4	貝野天池遺跡、坪野館跡
鉄道		0	0	0	
土地造成	県営圃場整備	4	0	19	梶花遺跡、樽沢開田遺跡、清津宮峯遺跡、白羽毛遺跡
	区画整理	0	0	2	
	土地改良	2	1	2	久保寺遺跡、下原田Ａ遺跡、下原田Ｂ遺跡
	国営パイロット	0	0	0	
	ゴルフ場	0	0	0	
	リゾート開発	0	0	0	
	公園整備	0	0	0	
	土砂採取等	0	3	17	狐窪遺跡、田沢中道遺跡（1次、2次）
	その他	2	2	2	上ノ山開墾地遺跡（確認、1次、2次）、上ノ山遺跡
建築	学校等	0	0	1	
	体育施設等	0	0	0	
	公共施設等	2	2	0	会所前Ａ遺跡（1～３次）、天尾山城跡
	住宅・店舗・工場等	0	3	6	
その他	耐震性貯水槽	0	0	4	
	携帯電話基地局	0	0	12	
鉄塔建設		0	0	0	
学術調査		3	0	0	笹山遺跡（8～10次）
合計		34	15	87	

第17表　発掘調査の原因（平成17年度以降）

調査年度	発掘	試掘	遺　　跡　　名
昭和34(1959)	1		小坂遺跡(1次)
昭和35(1960)	1		小坂遺跡(2次)
昭和45(1970)	1		牛ヶ首遺跡
昭和48(1973)	2		城之古遺跡(1次、県教委)、川治百塚第６号塚(県教委)
昭和49(1974)	2	9	馬場上遺跡(1・2次)
昭和50(1975)	3	20	馬場上遺跡(3・4次)、北原八幡遺跡(県教委)
昭和51(1976)	1		つつじ原Ｂ遺跡(1次)
昭和55(1980)	3		坪野館跡、馬場上遺跡(5次)、笹山遺跡(1次)
昭和56(1981)	2		池之端遺跡、笹山遺跡(2次)
昭和57(1982)	7		笹山遺跡(3～5次)、笹山塚群、カタガリ遺跡、カタガリ城跡、小坂遺跡(3次)
昭和58(1983)	4	2	赤羽根遺跡(1・2次)、馬場館跡(1次)、馬場神社遺跡
昭和59(1984)	6	4	馬場上遺跡(6次)、江崎遺跡、笹山遺跡(6次)、馬場館跡(2次)、赤羽根遺跡(3次)、柳木田遺跡(1次)
昭和60(1985)	6	3	柳木田遺跡(2次)、川治上原A遺跡、川治上原B遺跡、笹山遺跡(7次)、水穴遺跡(1次)、南谷内館跡(1次)
昭和61(1986)	2	2	栗ノ木田遺跡、南谷内館跡(2次)
昭和62(1987)	3	5	伊達八幡館跡、寺大門北遺跡、寺大門南遺跡
昭和63(1988)	4	10	河原田遺跡(1次)、社畑遺跡、狢原遺跡、朴ノ木清水B遺跡
平成元(1989)	8	17	朴ノ木清水A遺跡、つつじ原A遺跡、つつじ原B遺跡(2次)、大清水遺跡、中段遺跡、天池A遺跡、天池B遺跡、野首遺跡(1次)
平成２(1990)	4	11	鐙坂二ツ塚、狐塚遺跡、水沢館跡(1次)
平成３(1991)	6	20	横割遺跡、大新田遺跡、牛塚遺跡、椿池遺跡、河原田遺跡(2次)、牧脇遺跡
平成４(1992)	7	12	道下遺跡、宮ノ上A遺跡、宮ノ上B遺跡、水穴遺跡(2次)、延命寺遺跡、大井久保遺跡、ぼんのう遺跡(1次)
平成５(1993)	7	9	高島南原A遺跡、高島南原B遺跡、カウカ平A遺跡、カウカ平B遺跡、ぼんのう遺跡(2次)、珠川A遺跡(1次)、珠川B遺跡
平成６(1994)	6	10	珠川A遺跡(2次)、大沢遺跡、上塚原B遺跡、中道遺跡、思川遺跡、城之古遺跡(2次)
平成７(1995)	8	7	城之古遺跡(3次)、上梨子A遺跡、上梨子B遺跡、ぼんのう南遺跡、上組A遺跡、上組B遺跡、戸屋遺跡(1次)、野首遺跡(2次)
平成８(1996)	12	9	野首遺跡(3次)、戸屋遺跡(2次)、岡山遺跡、アミダ屋敷A遺跡、谷内田遺跡、島A遺跡、島B遺跡、白井田A遺跡、白井田B遺跡、なんぜん萱場遺跡(1次)、やせ舟遺跡(1・2次)
平成９(1997)	10	2	やせ舟遺跡(3次)、春山遺跡、寿久保遺跡、十二沖A遺跡、十二沖B遺跡、中曽根A遺跡、原田A遺跡、原田B遺跡、つつじ原Ｃ遺跡、なんぜん萱場遺跡(2次)
平成10(1998)	3	11	谷地A遺跡(1次)、中新田B遺跡(1次)、廿日城東遺跡(1次)
平成11(1999)	6	4	谷地A遺跡(2次)、中新田A遺跡、中新田B遺跡(2次)、廿日城東遺跡(2次)、下梨子遺跡(1次)、泥木遺跡
平成12(2000)	5	6	道端A遺跡、道端B遺跡、道下南遺跡、馬場上遺跡(7次)、上塚原A遺跡
平成13(2001)	3	4	狐城跡(1次)、水沢館跡(2次)、桃山遺跡
平成14(2002)	4	10	水沢館跡(3次)、狐城跡(2次)、宮栗北遺跡、馬場上遺跡(8次)
平成15(2003)	4	3	江道A遺跡、大道下遺跡、狐城跡(3次)、中林Ⅰ遺跡
平成16(2004)	3	5	江道B遺跡、江道C遺跡、下梨子遺跡(2次)
平成17(2005)	4	10	会所前Ａ遺跡(2次)、上ノ山開墾地遺跡(1次)、上ノ山遺跡
平成18(2006)	2	8	上ノ山開墾地遺跡(2次)、尾崎館跡
平成19(2007)	4	14	梶花遺跡、貝野久保遺跡、真萩田遺跡
平成20(2008)	6	16	貝野大道下遺跡、真萩田遺跡(2次)、上屋敷遺跡
平成21(2009)	9	14	樽沢開田遺跡、貝野沖遺跡、上屋敷遺跡(2次)、溝遺跡、久保寺遺跡、道下南遺跡、田沢中道遺跡、坪野館跡、田沢遺跡(2次)
平成22(2010)	5	17	清津宮峯遺跡、貝野沢田遺跡、干溝東遺跡、橋詰居村遺跡、田沢遺跡(3次)
平成23(2011)	7	8	干溝東遺跡、小原遺跡、白羽毛遺跡、下原田A遺跡、下原田B遺跡、貝野沢田遺跡、田沢遺跡(4次)
平成24(2012)	6	15	小原遺跡(2次)、会所前Ａ遺跡(3次)、おざか清水遺跡(2次)、貝野沢田遺跡(3次)、橋詰居村遺跡、笹山遺跡(9次)、田沢遺跡(5次)
平成25(2013)	6		おざか清水遺跡(3次)、橋詰居村遺跡(2次)、天尾山城跡、貝野沢田遺跡(4次)、原遺跡、笹山遺跡(10次)、田沢遺跡(6次)
小　　計	193	300	

調査年度	発掘	試掘	遺　　跡　　名
昭和34(1959)	1		泉竜寺遺跡
昭和40(1965)	1		中林遺跡
昭和43(1968)	1		田沢遺跡
昭和48(1973)	1		森上遺跡
昭和54(1979)	1		壬遺跡(1次)
昭和55(1980)	1		壬遺跡(2次)
昭和56(1981)	1		壬遺跡(3次)
昭和57(1982)	1		壬遺跡(4次)
昭和60(1985)	1	1	鷹之巣遺跡
昭和61(1986)	1		壬遺跡(5次)
昭和63(1988)	1		布場遺跡(1次)
平成元(1989)	1		通り山遺跡
平成２(1990)	1	2	一里塚遺跡
平成３(1991)	2	1	壬遺跡(6次)、干溝遺跡
平成４(1992)	2	1	小丸山遺跡、おざか清水遺跡
平成５(1993)	1		御屋敷遺跡
平成８(1996)		2	桂遺跡
平成９(1997)		7	
平成10(1998)		2	
平成11(1999)	1	2	久保寺南遺跡
平成12(2000)	1	4	家ノ上遺跡
平成13(2001)	4	7	貝野遺跡、中島遺跡(1次)、内後遺跡(1次)、布場遺跡(2次)
平成14(2002)	8	5	内後遺跡(2次)、中島遺跡(2次)、中田Ｂ遺跡、中田Ｄ遺跡、堂ノ上遺跡(1次)、宮中家ノ中遺跡、原屋敷遺跡、会所前遺跡
平成15(2003)	3	6	土橋遺跡、内後遺跡(3次)、堂ノ上遺跡(2次)
平成16(2004)	2	4	会所前Ａ遺跡(1次)、干溝南遺跡
小　　計	37	44	

調査年度	発掘	試掘	遺　　跡　　名
平成９(1997)	1		向原Ⅱ遺跡(確認)
平成10(1998)	1		向原Ⅱ遺跡(1次)
平成11(1999)	1		向原Ⅱ遺跡(2次)
小　　計	3		

第18表　発掘調査一覧（上段：旧十日町市・新十日町市、中段：旧中里村、下段：旧松代町）

年　度	試掘調査	確認調査	本調査	調査面積	事業費	調査遺跡
平成10年度	10件	1件		約900㎡	2,000千円	谷地A遺跡ほか
平成11年度	3件	1件		約350㎡	1,000千円	下梨子遺跡ほか
平成12年度	4件	2件		約680㎡	1,200千円	馬場上遺跡、上塚原A遺跡ほか
平成13年度	2件	2件		約620㎡	4,000千円	狐城跡、水沢館跡ほか
平成14年度	7件	3件	1件	約1,800㎡	6,000千円	宮栗北遺跡、狐城跡、馬場上遺跡、水沢館跡ほか
平成15年度	3件	3件		約1,510㎡	4,200千円	大道下遺跡、中林Ⅰ遺跡、狐城跡ほか
平成16年度	3件	5件		237㎡	3,800千円	宮栗北遺跡隣接地、下梨子遺跡、上ノ山開墾地遺跡隣接地ほか
平成17年度	10件	4件		1,156㎡	5,266千円	会所前A遺跡、上ノ山開墾地遺跡、上ノ山遺跡、尾崎館跡隣接地ほか
平成18年度	8件		1件	555㎡	7,000千円	尾崎館跡、梶花遺跡、真萩田遺跡、貝野久保遺跡ほか
平成19年度	13件	1件		約1,348㎡	4,320千円	田中山の根遺跡、上屋敷遺跡、貝野大道下遺跡、狐窪遺跡ほか
平成20年度	16件	3件		約1,858㎡	3,800千円	田沢中道遺跡、田沢谷上遺跡、滝の坂遺跡、貝野天池遺跡、坪野館跡、貝野沖遺跡、樽沢開田遺跡ほか
平成21年度	15件	4件		約740㎡	3,200千円	溝遺跡、清津宮峯遺跡、久保寺遺跡、道下南遺跡、田沢中道、坪野館跡ほか
平成22年度	17件	1件		732㎡	3,000千円	橋詰居村遺跡、干溝東遺跡、貝野沢田遺跡、下原田A遺跡、下原田B遺跡ほか
平成23年度	10件			359㎡	1,200千円	小原遺跡ほか
平成24年度	15件	1件		708.5㎡	3,000千円	田中カヤバ遺跡、仏子田遺跡、枯木遺跡、ぼうず田遺跡、会所前A遺跡ほか
平成25年度	15件	1件		約240㎡	3,000千円	貝野沖遺跡、天尾山遺跡、枯木遺跡ほか
（平均）	9.9件	2.0件	0.1件	約862㎡	3,499千円	

第19表　文化財保存事業費補助金関係事業の推移（平成10～25年度）　※平成16年度以前は旧十日町市

3．文化財関係者名簿

氏　名	担当分野	備　考
武田　正史	文化財一般、記念物（史跡）、有形文化財（歴史資料）、十日町	H.12.6.12～
庭野　政義	有形文化財（絵画、工芸品）	H.12.6.12～
宮沢　孝美	有形文化財（建造物）	H.14.6.12～
竹内　俊道	文化財一般、無形文化財（民俗）、有形文化財（歴史資料）	H.25.4.1～
井上　信夫	記念物（動物、植物）	H.14.6.12～
川村　知行	仏教美術	H.17.4.1～
星名　寔	文化財一般・川西	H.17.4.1～
山本　善平	文化財一般、古文書・松代	H.24.4.1～
相沢　一郎	文化財一般・松之山	H.25.4.1～
村山　詔平	文化財一般・中里	H.19.4.1～

第20表　十日町市文化財保護審議会委員名簿

氏　名	担当地域	備　考
丸山　克巳	十日町市（旧十日町市、旧中里村）、津南町	H.17.4.1～H.19.3.31
角山　誠一	十日町市（旧十日町市、旧中里村）、津南町	H.19.4.1～H.23.3.31
清水　迪男	十日町市（旧十日町市、旧中里村）、津南町	H.23.4.1～H.25.3.31
樋口　信一	十日町市（旧十日町市、旧中里村）、津南町	H.25.4.1～
佐藤　定行	十日町市（旧松代町、旧松之山町、旧川西町）、柏崎市（旧高柳町）	H.17.4.1～H.22.3.31
柳　裕	十日町市（旧松代町、旧松之山町、旧川西町）、柏崎市（旧高柳町）	H.22.4.1～

第21表　新潟県文化財保護指導委員名簿（平成17年度以降）

４．平成24年度の活動記録

⑴ 事業計画及び予算

文　化　財　課

◎方　針

地域文化の向上に資するため、文化財の調査、研究、保存、管理の充実をはかる。

◎重　点　①笹山遺跡の史跡公園化促進
②指定文化財の保護・管理
③埋蔵文化財調査と出土資料等の整理及びデータ蓄積
④埋蔵文化財等の調査報告書作成と刊行

◎事　　業

事　業　名	回数	実施時期	概要・備考
●一般経費関係事業			
文化財保護審議会	4	6月、9月、12月、3月	10名
文化財保護研修会	1	11月	広域文化財関係者対象
●文化財保護調査事業			
指定文化財の保護・管理		通年	市･県･国指定文化財等、標柱、説明板、環境整備ほか
各種文化財の調査・研究		通年	有形・無形文化財、民俗文化財、記念物等
文化財資料展		10月～11月	学校、地区公民館文化祭等（博物館共催）
●遺跡発掘調査事業			
国道改良予定地内遺跡の調査		5月～12月	小原遺跡、原遺跡、橋詰居村遺跡ほか
県道改良予定地内遺跡の調査		5月～12月	貝野沢田遺跡ほか
発掘調査説明会の開催		随時	現地説明会
遺跡分布調査		通年	埋蔵文化財、城館跡、巡回パトロール
発掘資料研究、発掘調査報告書編集		通年	樽沢開田遺跡、清津宮峯遺跡
発掘調査報告書の刊行		25年３月	市内遺跡
●埋蔵文化財等調査報告書作成事業			
埋蔵文化財等調査報告書の作成		通年	野首遺跡発掘調査報告書第２分冊（遺物編１・中期）の編集
国宝等データ整備		通年	データベース化・インターネット（博物館共編）
●火焔の都整備事業			
笹山遺跡の保存活用		通年	笹山遺跡史跡公園整備、笹山じょうもん市支援
信濃川火焔街道連携協議会		通年	首長サミット、縄文楽検定、縄文めぐりツアー
笹山遺跡学術調査（発掘）		通年	笹山遺跡保存整備検討委員会、専任職員配置
●文化財保存修理事業			
建造物等保存修理事業		5月～12月	神宮寺茅屋根災害復旧工事、松苧神社本殿屋根工事
●資料館等維持管理経費			
資料館施設管理委託		通年	開閉館、受付、清掃、除排雪
収蔵庫施設維持管理		通年	

◎予　　算

事業名（細目名）	金額（千円）	内　容　（細々目）	
10-4-2 文化財保護費			
一般経費	2,954	一般経費	2,954千円
文化財保護調査事業	2,020	文化財保護調査事業	2,020千円
遺跡調査発掘事業	45,404	遺跡調査･遺物整理事業（国県補助） 遺跡調査･遺物整理事業（委託金）	3,864千円 41,540千円
埋蔵文化財等調査報告書作成事業	4,137	埋蔵文化財等調査報告書作成事業	4,137千円
火焔の都整備事業	48,400	火焔の都整備事業（合併特例債） 火焔の都ソフトプラン事業 国宝出土地･笹山遺跡の学術調査（発掘）事業	25,000千円 1,600千円 21,800千円
文化財保存修理事業	2,250	建造物等保存修理事業	2,250千円
資料館等維持管理経費	7,874	車両維持管理経費 川西文化財資料収蔵庫･高倉文化財資料収蔵庫維持管理経費（除排雪経費含む） 中里文化財資料収蔵庫維持管理経費（除排雪経費含む） 松之山郷民俗資料館維持管理経費（除排雪経費含む）	400千円 613千円 5,620千円 1,241千円
合　　計	113,039		

⑵ 活動記録

①文化財保護審議会

・第１回　平成24年６月29日（於：博物館会議室）
　　出席委員　武田、宮澤、丸山、星名、山本、佐藤、村山
・第２回　平成24年10月４日（於：博物館会議室）
　　出席委員　武田、庭野、宮澤、井上、星名、山本、佐藤、村山
・文化財保護審議会合同研修会　平成24年11月30日（於：津南町文化センターほか）
・第３回　平成25年１月９日（於：博物館会議室）
　　出席委員　武田、庭野、宮澤、井上、星名、山本、佐藤、村山
・第４回　平成25年３月７日（於：博物館会議室）
　　出席委員　武田、庭野、宮澤、星名、山本、佐藤、村山

※付記：平成24年10月28日　丸山克巳委員逝去

②文化財保護調査事業

・文化財保存事業費補助金
　国指定文化財（建造物）　星名家住宅　636千円
　県・市指定文化財（無形文化財）　130千円（13件）
・指定文化財保護調査手数料
　県・市指定文化財（屋外管理文化財）　1,017千円（36件）

③文化財保存修理事業

・建造物等保存修理補助金
　国指定重要文化財　松苧神社本殿　250千円
　県指定文化財　神宮寺山門　2,000千円

④刊行事業

『平成24年度　十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書』　300部（91,350円）

⑤笹山遺跡学術調査（発掘）事業

・文化遺産カード（第１弾：平成24年４月１日配布開始、第２弾：同年７月１日配布開始）
・第８次調査成果報告会・遺物展示　平成24年６月３日（於：笹山縄文館）
　　（報告会参加者50名／２回、遺物見学者250名）
・第９次調査　平成24年７月11日～11月22日（調査面積約500㎡）
・みんなで掘る笹山遺跡（一般参加型発掘体験）
　　平成24年７月14～15日、21～22日、28～29日、８月４～５日、
　　11～12日の計５回開催（参加者数　延248人／半日、前年度比159％）
・第９次調査現地説明会　平成24年10月９日（見学者60名）
・学校向けプログラム（小中学校用体験授業、出前授業）
　　平成24年11月、参加者　7クラス・クラブ174人（前年度比129％）
・第９次調査速報展　平成24年12月27日～平成25年１月22日（於：十日町市博物館）
　　資料取得者45名

・ささやまラボ（一般参加型整理作業体験）
平成25年２月９日、23日、３月９日、23日の計４回開催（於：笹山縄文館）
参加者数　計43名（前年度比93％）
・笹山遺跡保存整備検討委員会　平成24年６月22日、10月１日、平成25年３月11日の計３回開催
・笹山遺跡を考える会　平成25年３月２日（於：笹山縄文館）、講師：赤塚次郎氏（NPO法人古代邇波の里・文化遺産ネットワーク理事長）

⑥信濃川火焔街道連携協議会関連事業
・縄文めぐりツアー　平成24年６月３日「笹山じょうもん市　交流の旅」（参加者103名）
・第５回縄文楽検定　平成25年３月３日（新潟・三条・長岡・十日町の４会場で実施）
受検者数：延79人（初級48人、中級31人）
・縄文カムバックサーモン事業　平成25年３月放流（参加校４校、約50,000匹）
※協議会の歩みは、本書９頁に別記

⑦収蔵庫及び資料館維持管理事業
・川西文化財資料収蔵庫（高倉文化財資料収蔵庫を含む）
維持管理費　436,461円、除雪経費　158,445円
・中里文化財資料収蔵庫
維持管理費　5,982,188円（屋根修繕工事費を含む）、除雪経費　953,974円
・松之山郷民俗資料館
入館者数　655人（前年度　847人）、維持管理費　1,122,449円、除雪経費　63,010円

⑧中里文化財資料収蔵庫　雪災害対応（1,351,000円　予備費充用）
屋根応急復旧修繕　312,000円、電気設備修繕　263,000円、除雪費　776,000円

⑨古文書等歴史資料収集・整理・保存・活用事業
※本書18～19頁に別記

（石原　正敏）

■編集後記

文化財課年報15をお届けします。平成24年度は事情により年報刊行を見送ったため、平成25年度を中心とした活動記録に、24年度分を適宜追加しています。変則的な、読みづらい構成となりましたことをお詫びいたします。文化財の調査・保護活動は地道な仕事ですが、先人の遺産を後世に守り伝えていく大切な使命があります。平成２年４月の文化財課設置から、もうすぐ四半世紀を迎えます。地域社会への貢献を常に念頭におきながら、問題意識を高くもって、今後も業務に携わっていく所存です。ささやかな冊子でありますが、ご一読いただき、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

（石原）

■文化財課・博物館職員（平成25年度）

文化財課長	佐野　芳隆	臨時職員	阿部　智美
課長補佐・文化財保護係長	佐野　誠市	臨時職員	大渕　麻美
副参事・埋蔵文化財係長	石原　正敏	臨時職員	角山　誠一
主査	矢口ヨネ子	臨時職員	田村　　薫
主査（文化財主事）	菅沼　　亘	臨時職員	涌井美保子
主査	太田　喜重	補助員	阿部美記子
主査	大滝　孝子	補助員	上野　洋子
主査（文化財主事）	笠井　洋祐	補助員	佐藤実千代
主任（文化財主事）	阿部　　敬	補助員	冨澤　孝之
主事	田村　典子	補助員	樋口　信一
嘱託（調査研究員）	宮内　信雄	補助員	高橋　真弓
事務支援員	鈴木　えみ	補助員	水落よね子
		補助員	富井　香織

十日町市教育委員会　**文化財課年報 15**

発行日／平成26年(2014) 3 月31日
編集・発行／十日町市教育委員会
文化財課

〒948-0072　新潟県十日町市西本町 1 丁目
十日町市博物館 内
十日町市教育委員会文化財課
TEL (025) 757-5531
FAX (025) 757-6998

印刷／㈱ 滝 沢 印 刷